市原市六孫王原遺跡G区

2016

ひらい不動産販売株式会社 市 原 市 教 育 委 員 会

市原市六孫王原遺跡G区

2016

ひらい不動産販売株式会社 市 原 市 教 育 委 員 会

例 言

- 1 本書は、千葉県市原市姉崎字六孫王原3233番1の一部に所在する六孫王原遺跡G区の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査及び整理作業·報告書刊行は、市原市教育委員会生涯学習部ふるさと文化課埋蔵文化財調査 センターが実施した。
- 3 発掘調査は以下のとおり行った。なお、所在地などの諸情報は巻末の報告書抄録に記載した。 本調査1,137㎡ (調査コード セ535)調査期間:平成27年4月27日~6月30日 担当 近藤 敏
- 4 整理・原稿執筆・編集は田中清美が担当し、挿図作成の一部について近藤が協力した。
- 5 本書内の遺構実測には、公共座標値(平面直角座標第IX系)を使用している。
- 6 遺物の詳細内容については、第3表土器等観察表及び第4表鉄製品・石製品観察表で説明した。

本文目次 表 次 Ħ 1 調査に至る経緯 …………1 **第1表** 遺構名(番号)新旧対照表 ··········· 3 2 調査遺跡の位置 …………1 第2表 挿図掲載外の遺物量 ………27 3 調査の成果 ………4 第3表 土器等観察表 ……………30 4 まとめ ……………………27 第4表 鉄製品·石製品観察表 ……32 插 図 目 次 六孫王原遺跡調査全体図 …………………………2 第2図 第5図 11号遺構実測図及び出土遺物実測図 ………………………… 8 第6図 11号遺構出土遺物実測図 …………………………9 第7図 第8図 12号遺構実測図 ……………………………………………………………… 9 12号遺構出土遺物実測図 …………………………………………………………10 第9図 第10図 第11図 第12図 第13図 第15図 **第16図** 15号遺構出土遺物実測図 ···········16

第17図	14・15号遺構一括出土遺物及び縄文土	上器実測図	
第18図	16~19号遺構実測図		
第19図	20~23号遺構実測図及び16号遺構出	土遺物実測図	20
第20図	17·18·21号遺構出土遺物実測図		21
第21図	24号遺構実測図		22
第22図	24号遺構出土遺物実測図		23
第23図	25号遺構実測図(1)		24
第24図	25号遺構実測図(2)		25
第25図	25号遺構実測図及び出土遺物実測図		26
第26図	その他一括出土遺物実測図		
	义	版目次	
	-	版目次	
PL. 1	遺跡遠景、調査前の状況、調査状況		14·17·18·21·24号遺構出土遺物
PL. 1	-		
PL. 1 PL. 2	遺跡遠景、調査前の状況、調査状況		14·17·18·21·24号遺構出土遺物
	遺跡遠景、調査前の状況、調査状況 1·2号遺構	PL. 9	14·17·18·21·24号遺構出土遺物 14·15号遺構一括
PL. 2	遺跡遠景、調査前の状況、調査状況 1·2号遺構 3~12号遺構	PL. 9	14·17·18·21·24号遺構出土遺物 14·15号遺構一括 その他一括出土遺物
PL. 2 PL. 3	遺跡遠景、調査前の状況、調査状況 1·2号遺構 3~12号遺構 13~15号遺構	PL. 9	14·17·18·21·24号遺構出土遺物 14·15号遺構一括 その他一括出土遺物 1~3·5·7·8·10~13号遺構出土遺物
PL. 2 PL. 3 PL. 4	遺跡遠景、調査前の状況、調査状況 1·2号遺構 3~12号遺構 13~15号遺構 14~17号遺構	PL. 9 PL. 10 PL. 11	14·17·18·21·24号遺構出土遺物 14·15号遺構一括 その他一括出土遺物 1~3·5·7·8·10~13号遺構出土遺物 14·15号遺構出土遺物
PL. 2 PL. 3 PL. 4 PL. 5	遺跡遠景、調査前の状況、調査状況 1·2号遺構 3~12号遺構 13~15号遺構 14~17号遺構 16~19号遺構	PL. 9 PL. 10 PL. 11	14·17·18·21·24号遺構出土遺物 14·15号遺構一括 その他一括出土遺物 1~3·5·7·8·10~13号遺構出土遺物 14·15号遺構出土遺物 14·15号遺構一括及び縄文土器
PL. 2 PL. 3 PL. 4 PL. 5 PL. 6	遺跡遠景、調査前の状況、調査状況 1·2号遺構 3~12号遺構 13~15号遺構 14~17号遺構 16~19号遺構 20~24号遺構	PL. 9 PL. 10 PL. 11	14·17·18·21·24号遺構出土遺物 14·15号遺構一括 その他一括出土遺物 1~3·5·7·8·10~13号遺構出土遺物 14·15号遺構出土遺物 14·15号遺構一括及び縄文土器 14·15号遺構一括及び縄文土器

1 調査に至る経緯

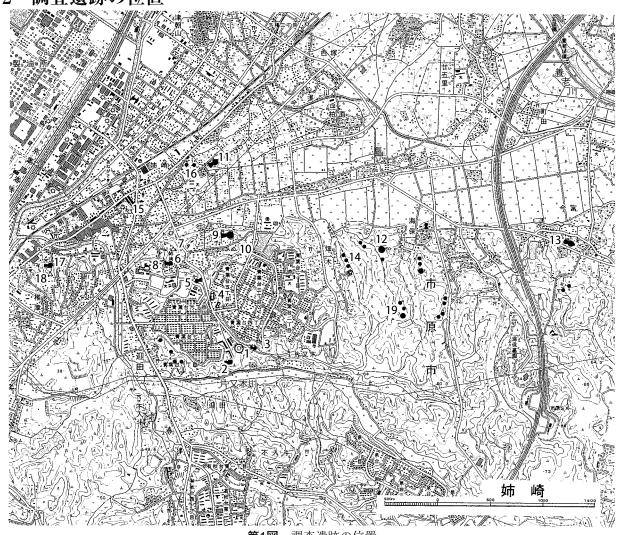
今回の発掘調査は、千葉県市原市姉崎字六孫王原3233番1の一部における宅地造成工事に伴い実施したものである。

ひらい不動産販売株式会社は、工事に先行して、平成26年10月1日付けで、文化財保護法第93条第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」を千葉県教育委員会教育長及び市原市教育委員会教育長宛に提出した。

届出を受けて市原市教育委員会が試掘を実施した結果、遺構と遺物が検出されたため、事業範囲の内 2.630.37㎡を対象に、市原市教育委員会が国庫補助事業として確認調査を行った。

確認調査の結果に基づき、ひらい不動産販売株式会社と千葉県教育委員会及び市原市教育委員会との 協議を行い、現状保存が困難な工事範囲1,137㎡を対象として今回の本調査を実施することになった。

2 調査遺跡の位置

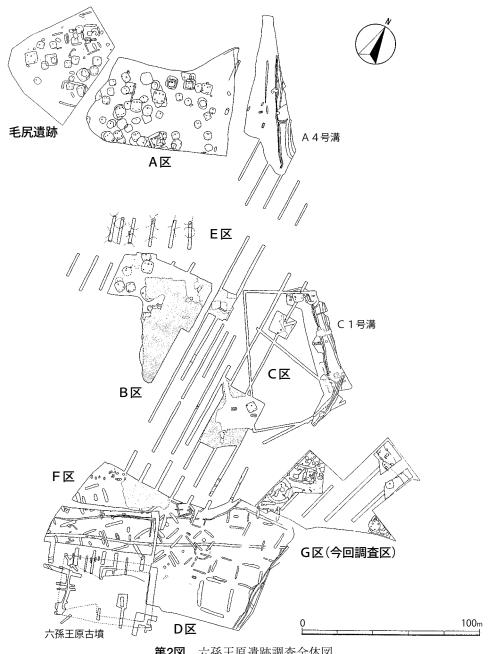


第1図 調査遺跡の位置

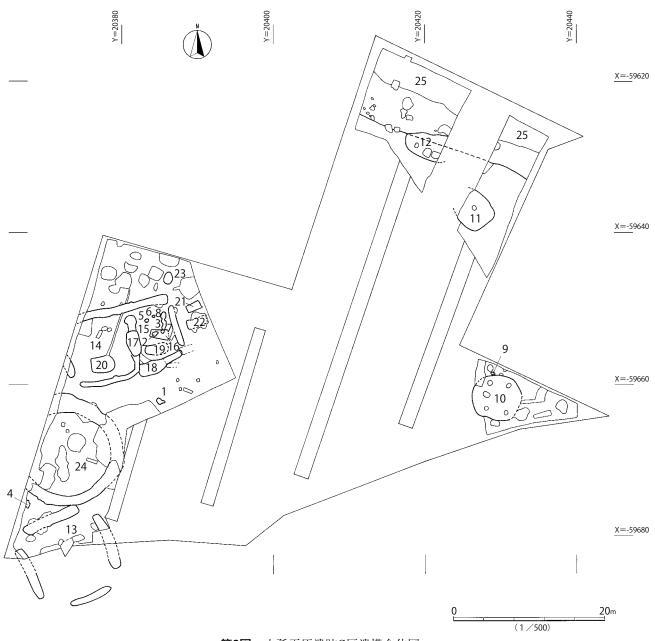
1 六孫王原遺跡 2 六孫王原古墳 3 堰頭古墳 4 原1号墳(原遺跡) 5 鶴窪古墳 6 釈迦山古墳 7 姉崎宮山遺跡 8 山王山古墳 9 姉崎天神山古墳 10 姉崎東原遺跡 11 二子塚古墳 12 海保大塚古墳 13 今富塚山古墳 14 畑木古墳群 15 妙経寺古墳群 16 上野合遺跡 17 外郭古墳 18 茶ノ木遺跡 19 海保大塚遺跡

六孫王原遺跡は、東京湾旧汀線から南東に約2.4km入った椎津川と養老川間の台地上に位置する。標 高は約47mを測る。当台地の南側には、椎津川支流片又木川の小谷が存在する。当遺跡は、マンション 建設に伴う調査が昭和63年以降から5回行われており、弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡や方形 周溝墓群などが検出されている。また、遺跡内の南側には横穴式石室を検出した全長約45mの前方後方 墳である六孫王原古墳(市指定)、東側には前方後円墳の堰頭古墳が存在する。今回の調査区は、遺跡の 北東側にあたる。

当遺跡に隣接する毛尻遺跡や北西側の原遺跡では、弥生時代の竪穴建物跡や方形周溝墓が調査されて いる。付近の主な古墳は、当遺跡の北西側約0.5kmに原1号墳(消滅)、同じく約0.7kmに下総型円筒埴輪 を検出した鶴窪古墳(市指定)、同1kmに粘土槨が確認された釈迦山古墳と銀装環頭大刀や胡籙などを出 土した山王山古墳(消滅)、北側約1kmに全長約130mの前期古墳と見られる姉崎天神山古墳(県指定)、



第2図 六孫王原遺跡調査全体図



第3図 六孫王原遺跡G区遺構全体図

第1表 遺構名(番号)新旧対照表

No	本書 記載名	現場 使用名	種類	時期	備考	No	本書 記載名	現場 使用名	種類	時期	備考
1	1	8	炉穴	縄文早期		14	14	11	方形周溝墓	弥生	
2	2	9	炉穴	縄文早期		15	15	7	方形周溝墓	弥生	
3	3	10	炉穴	縄文早期		16	16	7-1	土壙墓	弥生	
4	4	未	炉穴	縄文早期	現場名5号の南	17	17	7-2	土壙墓	弥生	
5	5	12	炉穴	縄文早期		18	18	7-3	土壙墓	弥生	
6	6	13	炉穴	縄文早期		19	19	7-4	土壙墓	弥生	
7	7	未	炉穴	縄文早期	現場名10号の南	20	20	11-1	土壙墓	弥生	
8	8	未	炉穴	縄文早期	現場名10号の北	21	21	14	土壙墓	弥生	
9	9	未	炉穴	縄文早期	現場名3号の北	22	22	15	土壙墓	弥生	
10	10	3	竪穴建物跡	弥生		23	23	16	土坑	弥生	
11	11	4	竪穴建物跡	弥生		24	24	5	円墳	古墳	
12	12	6	竪穴建物跡	弥生		25	25	1	道路状遺構	中世	
13	13	2	方形周溝墓	弥生	市遺跡分布図 339-5						

北側約1.8kmの砂堆上に石枕(国指定)や銀製耳飾などを出土した全長110mの二子塚古墳(県指定)などが存在し、上海上国造の奥津城といわれる姉崎古墳群を構成する。古墳の時期としては、姉崎天神山古墳・釈迦山古墳が前期、二子塚古墳が中期、山王山古墳・原1号墳・鶴窪古墳が後期、六孫王原古墳が終末期と考えられ、前期から終末期までほぼ連続して古墳が構築されている。特に前期古墳は、房総の同時期の古墳群の中でも最大規模を誇っている(第1図)。

3 調査の成果

(1) 調査概要

今回の調査は、確認調査の結果を受けて実施したG区1,137㎡の本調査である。本調査範囲は4か所に分かれている(第3図)。調査前の現地は畑地、山林及び荒地であった。測量基準点は座標値(日本測地系)を使用した。水準点については近隣の既知点より求めた。表土は重機により除去し、遺構プランを確認した。調査は当区に隣接するB·C·D区で検出された遺構との繋がりを想定して進めた。遺構の保存状況は、昭和40年代に建設されたボーリング場などによる掘削部分や木の根の掘り返し部分が見られた以外は比較的良好で、当地域の標準層が残っており、多数の遺構が検出された(第3図)。

(2) 遺構と遺物

炉穴

1号遺構(第4図、PL.1)は、調査区の南西側やや中央寄りに位置し、15号遺構から南側に3.20m離れている。形体は瓢箪形で、遺構プランの西側に焼土が厚く堆積する。規模は長軸1.25m、短軸0.80m、深さ0.07m、主軸方位はN-87°-Wである。出土遺物(第4図、PL.10)1は、縄文早期後半の条痕文系深鉢胴部片1点のみで、焼土内からの出土である。

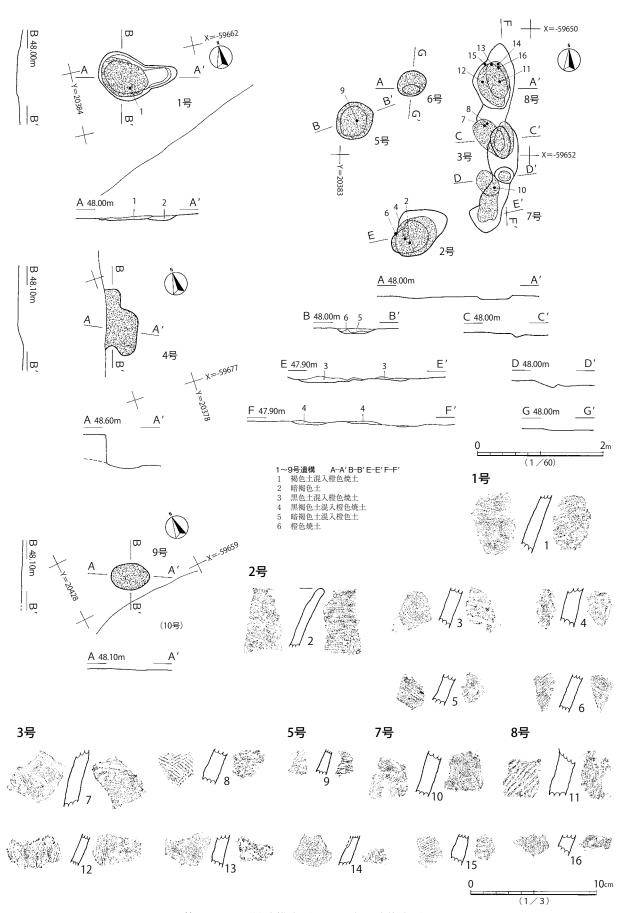
2号遺構(第4図、PL.1)は、調査区の南西側に位置し、15号遺構のプラン内にあり、上部を16号遺構に切られている。形体は不整円形で、焼土が遺構プランの南西側に堆積する。規模は長軸1.00m、短軸0.70m、深さ0.10m、主軸方位はN-60°-Eである。出土遺物(第4図、PL.10)2~6は、縄文早期後半の条痕文系の深鉢片で、2は口縁部、3~6は胴部片で2・4・6は、焼土内からの出土である。

3号遺構(第4図、PL.2)は、調査区の南西側に位置し、15号遺構のプラン内にあり、南側に7号遺構、 北側に8号遺構が連なるように重複している。形体は不整形で焼土が存在する。深さは0.05mである。出 土遺物(第4図、PL.10)7·8は、縄文早期後半の条痕文系の深鉢胴部片2点で、焼土内からの出土である。

4号遺構(第4図、PL.2)は、調査区の南西側に位置し、24号遺構から南西に1.20m離れて存在する。遺構プランの東側部分のみの調査である。形体は焼土の範囲のみで不整形を呈する。規模は長軸1.10m、短軸0.50m、深さ0.10m、主軸方位はN-5°-Wである。出土遺物は皆無である。

5号遺構(第4図、PL.2)は、調査区の南西側に位置し、15号遺構のプラン内にあり、北東側0.50mに6号遺構、南東側1.35mに2号遺構が存在する。形体はほぼ円形で焼土が内側に堆積する。規模は長軸0.58m、短軸0.55m、深さ0.08m、主軸方位はN-1°-Wである。出土遺物(第4図、PL.10)9は、縄文早期後半の条痕文系の深鉢胴部片1点のみで焼土内からの出土である。

6号遺構(第4図、PL.2)は、調査区の南西側で15号遺構の内側に位置し、南西側0.50mに5号遺構、東側0.75mに8号遺構が存在する。形体はほぼ円形で焼土が全体に存在する。規模は長軸0.45m、短軸



第4図 1~9号遺構実測図及び出土遺物実測図

0.40m、深さ0.05m、主軸方位はN-5°-Eである。出土遺物は皆無である。

7号遺構(第4図、PL.2)は、調査区の南西側に位置し、15号遺構のプラン内にある。北側で3号遺構と重複し、南西側0.30mに2号遺構が存在する。形体は不整形で焼土が存在し、深さは0.07mである。出土遺物(第4図、PL.10)10は、縄文早期後半の条痕文系の深鉢胴部片1点のみで焼土内からの出土である。

8号遺構(第4図、PL.2)は、調査区の南西側に位置し、15号遺構のプラン内にあり、南側で3号遺構と重複し、西側0.75mに6号遺構が存在する。形体は不整形で焼土が存在し、深さは0.05mである。出土遺物(第4図、PL.10)11~16は、縄文早期後半の条痕文系の深鉢胴部片で、すべて焼土内からの出土である。9号遺構(第4図、PL.2)は、調査区の東側に位置し、10号遺構の北側0.15mに近接する。形体は長円形で焼土が薄く存在する。規模は長軸0.60m、短軸0.40m、深さ0.03m、主軸方位はN-60°-Wである。出土

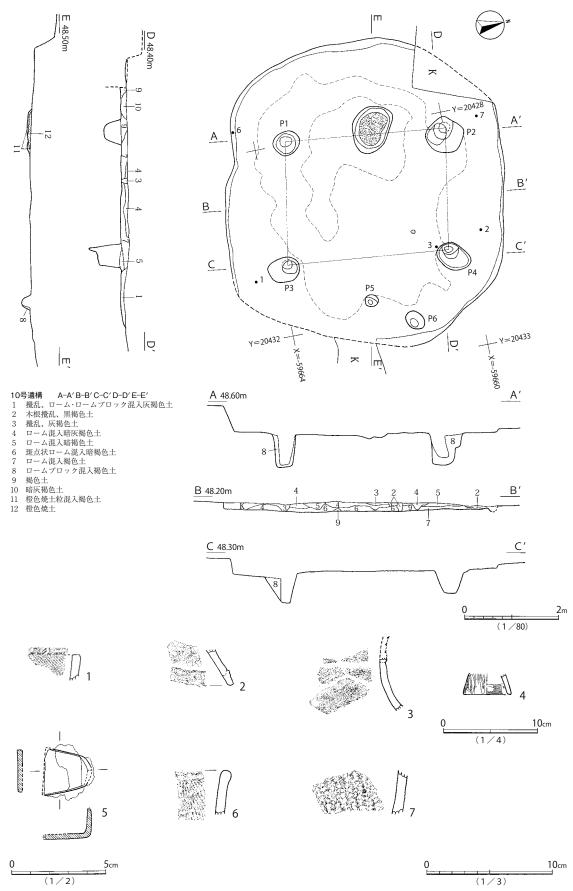
竪穴建物跡

遺物は皆無である。

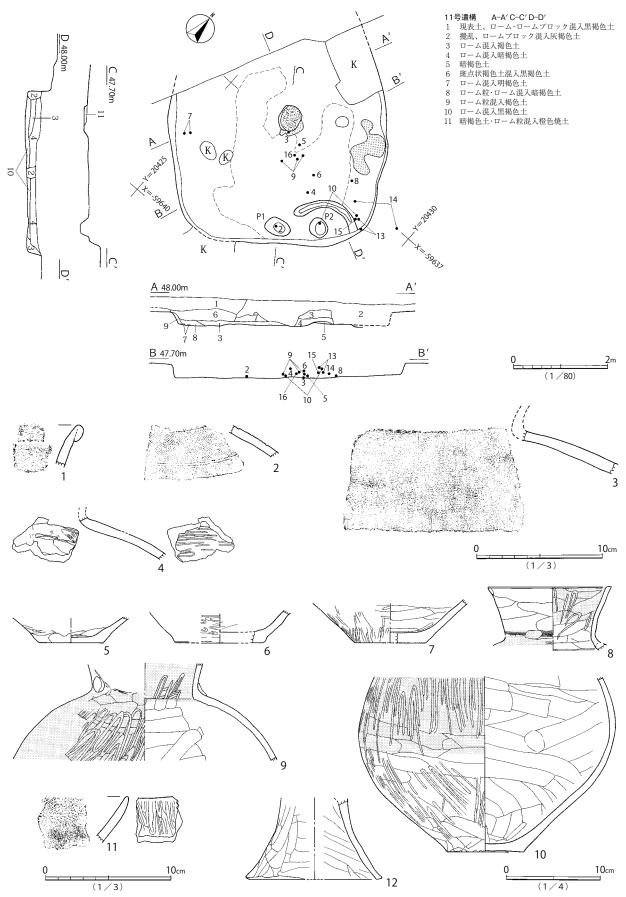
10号遺構(第5図、PL.2)は、調査区の東側に位置し、形体は長円形で、北西側と東側に撹乱土坑が入る。遺構プラン全体上部がやや削平されており、特に北側と東側が顕著であった。規模は長軸6.42m、短軸5.92m、深さ0.88m、主軸方位はN-78°-Wである。床面中央付近に硬質面を確認できる。炉は長軸線上のP1とP2間に存在する。大きさは長軸1.04m、短軸0.78m、深さ0.12mで焼土が厚く堆積している。壁溝は認められない。主柱穴は4本で深さは、P1が0.76m、P2が0.63m、P3が0.62m、P4が0.48mである。P2は立ち上がりが斜めで床面の中央方向を向いている。P5は深さ0.19mで梯子ピット、P6は深さ0.14mで貯蔵穴とみられる。竪穴の覆土は、ローム混入褐色土を主体とした自然堆積とみられる。出土遺物(第5図、PL.10)1は、弥生土器椀口縁部片、2は高杯の脚部片である。3は甕胴部片、4は小型台付甕の台部片、5は板状不明鉄片で平面五角形の三角形部分が直角に折り曲げられている。6・7は早期の縄文土器片である。1~3は覆土下層、4・5も覆土からの出土である。

11号遺構(第6図、PL.2)は、調査区の北側やや東寄りに位置し、遺構プラン北西側の一部が未掘である。撹乱が北側や床面に見られる。12号遺構が北西に6.00m離れて存在する。形体は胴張りの隅丸方形と推定される。検出規模は長軸4.60m、短軸4.38m、深さ0.60m、主軸方位N-41°-Wである。周溝は認められない。床面中央付近南側に硬質面を確認できる。炉は床面のほぼ中央付近に存在し、やや長円形で大きさは長軸0.57m、短軸0.43m、深さ0.10m、焼土が厚く堆積する。ピットは、P1が深さ0.20mの梯子ピット、P2は深さ0.30mを測る貯蔵穴で、北側床面には幅0.12m前後、高さ0.04mの周堤帯がある。竪穴の覆土はローム混入暗褐色土を主体とした自然堆積である。遺構プランの北側から床面中央部に向って遺物の流れ込みが見られる。出土遺物(第6・7図、PL.8・10)1は、弥生土器壺口縁部片、2は壺胴部片、3・4は甕胴上部片、5~10は壺、11は椀口縁部片、12は台付甕台部片である。13~15は弥生土器甕である。16・17は縄文土器片である。2はP1覆土上層、3・5・7・8は床面付近、4・6・9・10・13~16は覆土下層、他は覆土からの出土である。

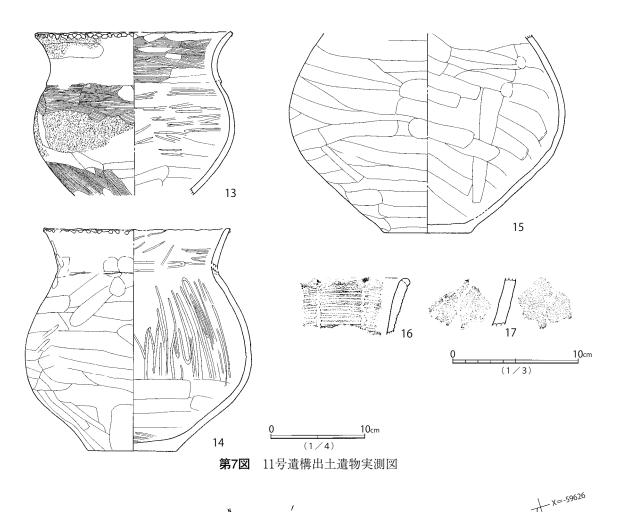
12号遺構(第8図、PL.2)は、調査区の北側中央付近に位置し、11号遺構が南東に6.00m離れて存在する。形体は長円形に近く、いわゆる小判形である。東側の一部は未掘で北側は25号遺構に切られており、南側床面には撹乱土坑が認められる。遺構全体プランの約1/3の検出である。検出規模は長軸5.12m、短軸3.24m、深さ0.40m、主軸方位はN-68°-Wである。南西側のP1は深さ0.77mで主柱穴の可能性もある。壁溝は認められない。竪穴の覆土はローム・ロームブロック・ローム粒混入黒褐色土を主体とした自然堆



第5図 10号遺構実測図及び出土遺物実測図



第6図 11号遺構実測図及び出土遺物実測図



<u>B 47</u>.30m C 47.40m B ľω $/\bar{\mathcal{C}}$ Ιœ́

12号遺構 B-B' 1 ロームブロック混入暗灰褐色土 2 ローム・ロームブロック・ローム粒混入黒褐色土 3 ロームブロック混入褐色土 4 ローム粒混入褐色土 5 ロームブロック 2m ⊐ (1/80)

A 47.20m

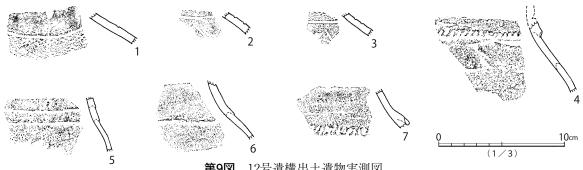
Α′.

__<u>A</u>′

K

_ X=-59630

第8図 12号遺構実測図



第9図 12号遺構出土遺物実測図

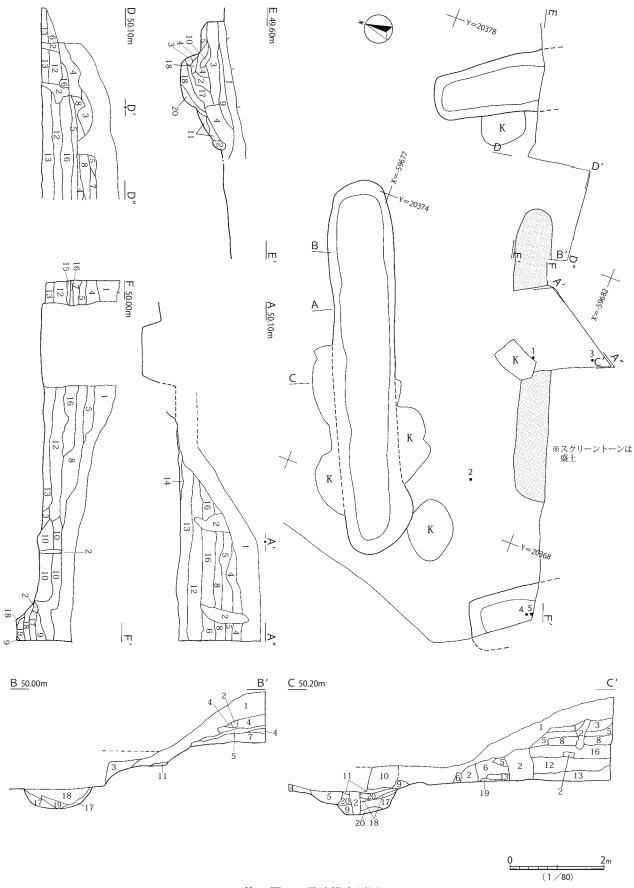
積と考えられる。出土遺物(第9図、PL.10)1~3は、弥生土器壺片で、4~7は甕胴部片である。1は床面 直上、他は覆土からの出土である。

方形周溝墓

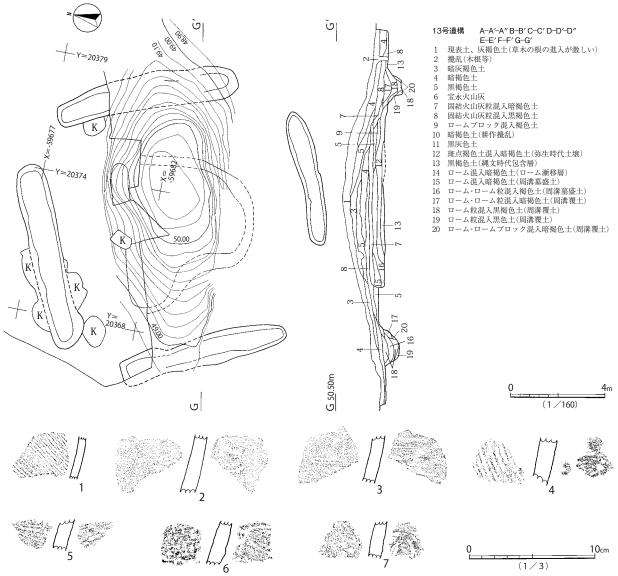
13号遺構(第10·11図、PL.3)は、調査区の南西隅に位置し、24号遺構が当遺構の北側溝に近接する。 遺構プランの南東側約1/2は平成3年度に「D30号方形周溝墓」として調査されている。今回は未調査部 分の北西側約1/2の調査であり、ほぼ全体の遺構プランが判明した(第10図)。形体は四隅開口形で、方 台部の規模は、南北軸10.60m、東西軸9.80m、主軸方位は南北軸でN-65°-Eである。今回調査した部分で は北西側周溝を全掘したが、北東側と南西側の周溝は一部のみの調査である。北西側周溝は規模が長さ 8.00m、幅1.36m、深さ0.70m、北東側周溝は、検出した長さは2.32mで、前回調査を含めた復元値は長 さ7.80m、幅1.50m、深さ1.20m、南西側周溝は、検出した長さは1.42mで、前回調査を含めた復元値は長 さ7.10m、幅1.20m、深さ0.40mを測る。周溝の覆土は、ローム·ローム粒混入暗褐色土、ローム粒混入黒 褐色土などを主体とした自然堆積と推定される。方台部中央の一部に15層のローム混入暗褐色土と16層 のローム·ローム粒混入褐色土で構成する盛土(高さ0.30m)が認められる。なお、平成3年度の調査でも、 盛土は確認されており、周溝から約1.50~2.00m離れた方台部の中央付近に残存している。調査前の盛 土は高さ約1.60mあったが、15·16層より上層の盛土については後世の所産と考えている。埋葬施設は 認められなかった。出土遺物(第11図、PL.10)は、遺構に関連する時期の土器は無く、1~7は早期の縄 文土器片である。南東側の前回調査では、断面方形の環状鉄片や砥石が出土しているが、遺構に関連す る遺物であるかは不明である。

14号遺構·15号遺構(第12·13図、PL. 3·4)

14号遺構は、北西隅付近が未掘で、形体は北東隅と南西隅が開口していると考えられる。遺構プラン の北側には撹乱土坑や溝が見られる。方台部の規模は南北軸8.32m、東西軸7.56m、主軸方位は南北軸で N-79°-Eである。南側周溝は、幅0.48~0.80mとやや細く、深さは0.30m、北側周溝は、幅1.00~1.20mと 広く、深さは0.32mを測る。周溝の断面は逆台形で、覆土はローム粒混入黒褐色土や褐色土を主体とし た自然堆積とみられる。埋葬施設は20号遺構(土壙墓)と考えられ、方台部南側中央に設置されている。 出土遺物(第14·15図、PL.8·9·11)1~8·10·11·13·15~26は、弥生土器壺、9·14は甕、12は椀である。14 号遺構は遺物量が多く、特に北側周溝東寄りに遺物の集中分布地点があり、1·2·4~10·13~23·25が覆 土上層から、このうち2は15号遺構出土土器3点と接合する。3は方台部上の出土であるが、17号遺構に 伴う可能性もある。22は、15号遺構北側周溝東端部上層出土土器1点と接合、11は北側周溝内、12は14 号と15号遺構の北側周溝接続部付近で、いずれも覆土上層、24·26は北側周溝外の出土である。



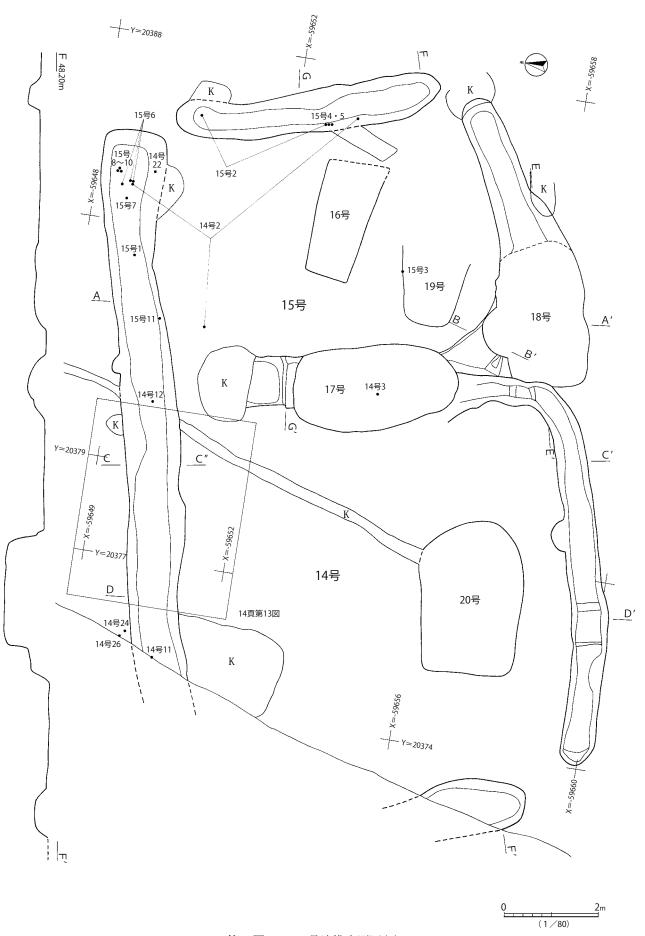
第10図 13号遺構実測図



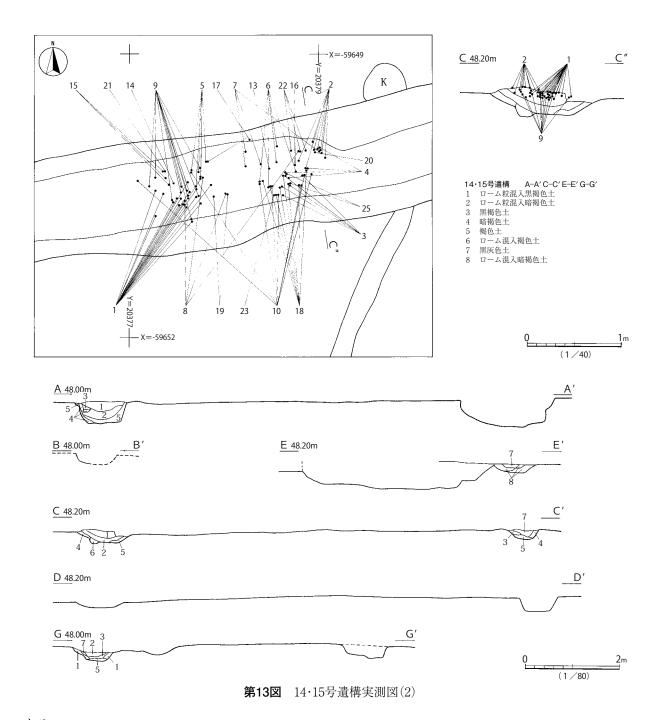
第11図 13号遺構実測図(合成)及び出土遺物実測図

15号遺構は、調査区の西側に位置し、形体は北東側、南東側及び北西側の3隅が開口し、北側周溝は14号遺構の北側周溝と直線的に連結する。南側周溝は西側で18号遺構(土壙墓)に切られているが、南西側は内側に弧状で14号遺構の東側周溝に連結する溝が認められる。当溝は15号遺構の溝と考えられ、14号遺構の南側周溝とは連結していない。15号遺構は、14号遺構を東側に拡張した遺構と考えられ、埋葬施設は14号遺構の東側周溝部分中央に位置する17号遺構(土壙墓)とみられる。15号遺構の方台部の幅(南北軸)は7.36mである。東側周溝は長さ5.64m、幅0.92m、深さ0.22mを測る。周溝は断面逆台形で、覆土はローム粒混入暗褐色土や褐色土が主体で自然堆積である。出土遺物(第16図、PL.11)1~10は、弥生土器壺片、11は高杯の脚部片である。特に北側周溝の東端部付近に遺物の集中分布地点が見られる。1・6~11は北側周溝内、2・4・5は東側周溝内で、いずれも覆土上層からの出土である。

14号と15号遺構を併せた拡張後の方台部の主軸方位はN-76°-Eで、検出長軸13.78mを測る。埋葬施設とみられる17号遺構は、土層観察から14号遺構の東側溝が埋没した段階で設置したと考えられる。方台部や周溝内に存在する16号・18号・19号遺構(いずれも土壙墓)は、位置関係などから追葬施設の可能性が



第12図 14·15号遺構実測図(1)

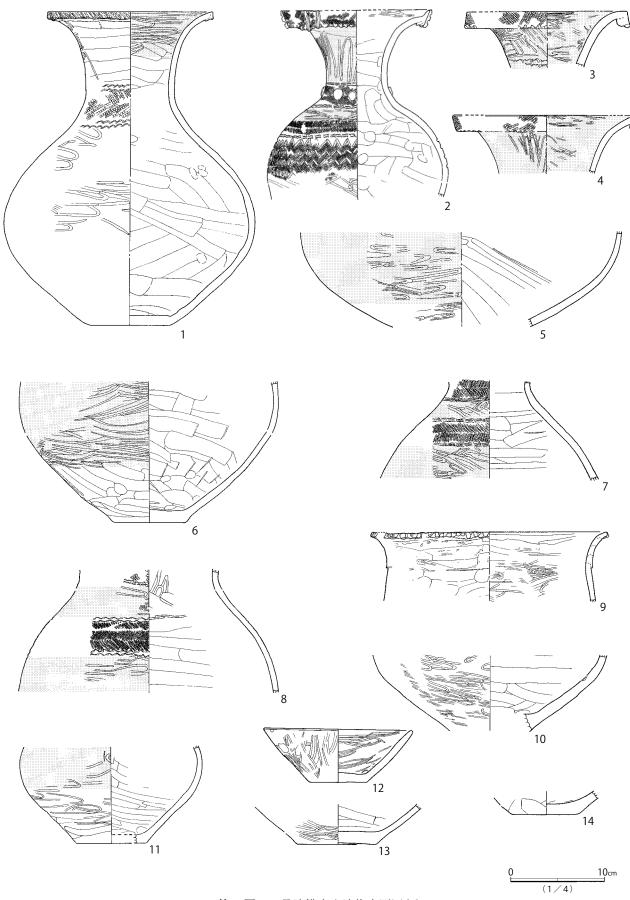


ある。

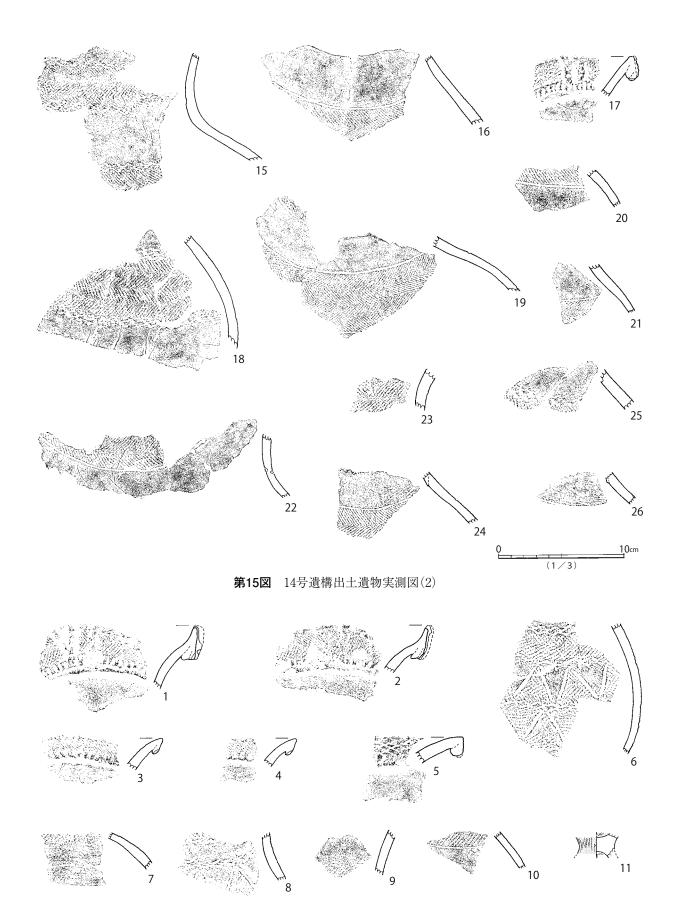
14・15号遺構一括及び縄文土器(第17図、PL.9・11・12)1は、弥生土器鉢片、2は土師器高杯の脚裾部片、3は土師器鉢体部、4は板状不明鉄片である。5・6・8~10・12~24は縄文時代早期条痕文系深鉢片、26は円形刺突文が施される早期後半の鵜ヶ島台式、7・25・27は前期の深鉢片とみられ、7は薄手で口唇部から両面に刺突文、25は厚手でやや粗い沈線と刺突文が施されている。28は中期加曽利E式、29・33・34は後期加曽利B式、11・30~32は晩期の安行式、35は中世の瀬戸美濃系擂鉢の胴下部片である。後期様式IV期~大窯期と考えられる。

土壙墓

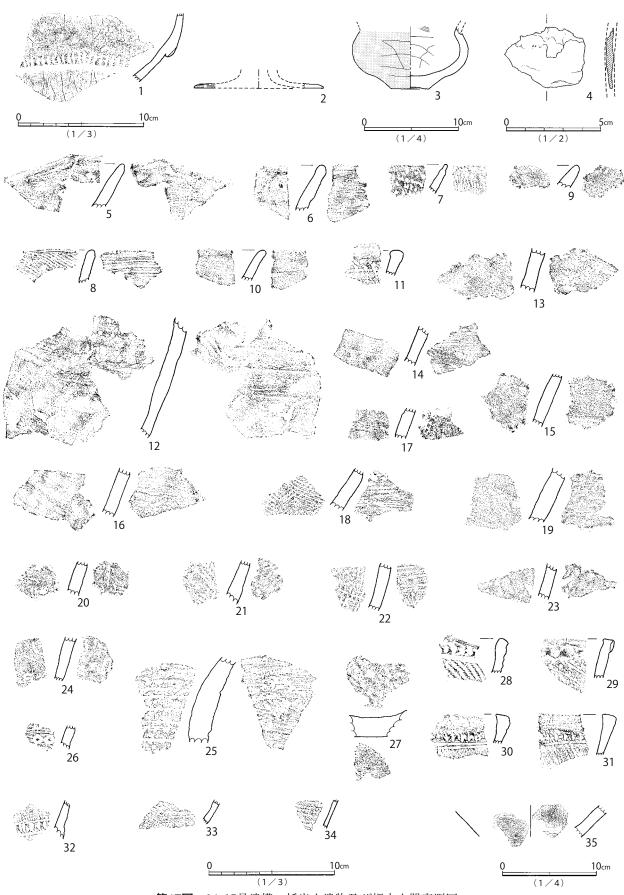
16号遺構(第18図、PL.4)は、15号遺構の方台部内中央やや東寄りに位置し、掘り方の形体は長方形であるが東側はやや幅広い。検出した深さは0.25m、東側の立ち上がりは検出できず、残存状況はやや



第14図 14号遺構出土遺物実測図(1)



第16図 15号遺構出土遺物実測図



第17図 14・15号遺構一括出土遺物及び縄文土器実測図

悪い。掘り方の規模は推定長軸2.45m、短軸1.10m、主軸方位N-84°-Wを測る。灰白色粘土の裏込めが認められる。木棺痕の幅は0.55mを測る。底面は若干の凹凸が見られる。覆土は3層のローム粒混入暗褐色土が木棺痕と推定される。出土遺物(第19図、PL.12)1は鉄製直刃鎌片である。北側中央の底面付近からの出土で棺外とみられる。

17号遺構(第18図、PL.4·5)は、14号遺構の東側周溝中央付近に位置し、掘り方の形体は長円形で、規模は長軸3.50m、短軸1.80m、深さ0.70m、主軸方位N-10°-W、木棺痕は長さ2.25m、幅0.55mを測る。底面は平坦である。覆土は5~7層のローム混入褐色土などが裏込め土、木棺痕が4層のローム粒・ロームブロック混入暗褐色土である。当遺構は設置された位置から14号遺構を15号遺構との拡張後の埋葬施設とみられる。出土遺物(第20図、PL.9·12·13)1~6は、弥生土器壺片(1·2が口縁部片)、7·8は椀の口縁部片、9は甕である。いずれも覆土上層より出土。10·11は鉄釧で10は先端部片、11は斜めに重なった状態で1点残存。10は底面直上で中央東側、11は同じく中央やや南寄りからの出土である。

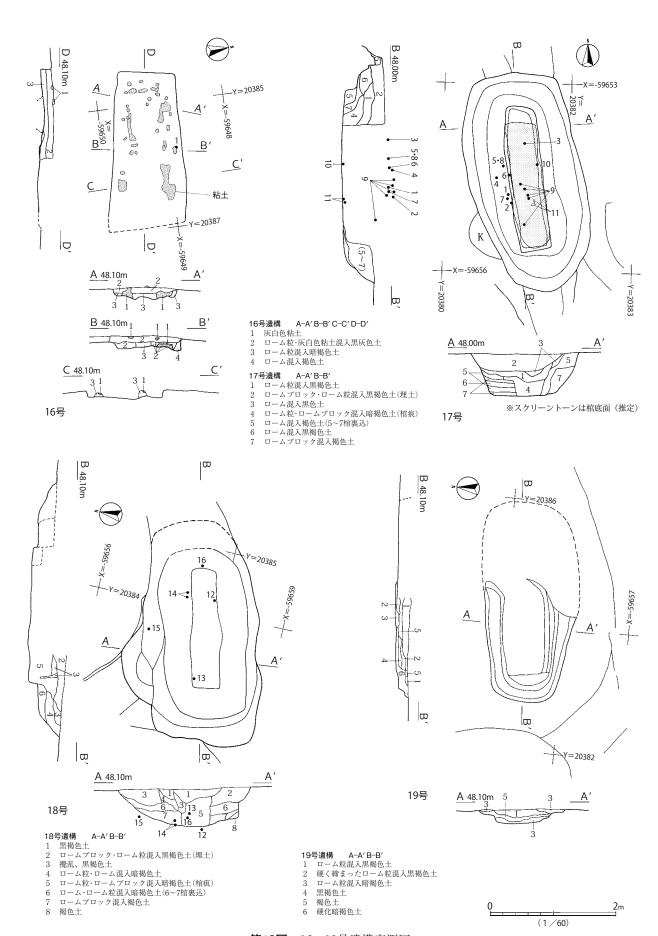
18号遺構(第18図、PL.5)は、15号遺構の南側周溝を切って位置する。掘り方の形体は長円形で北側の一部が広がる。規模は推定長軸3.55m、短軸2.15m、深さ0.60m、主軸方位N-75°-E、木棺痕は長さ1.90m、幅0.50m、深さ0.45mを測る。底面は平坦である。覆土は6層のローム・ローム粒混入暗褐色土と7層のロームブロック混入褐色土が裏込め土で、5層のローム粒・ロームブロック混入暗褐色土が木棺痕とみられる。出土遺物(第20図、PL.9·13)12は、弥生土器椀、13·15は壺胴部片、14は壺頸部片、16は複合口縁部片である。12は東側底面、13·14·16は覆土下層、15は北側覆土より出土した。

19号遺構(第18図、PL.5)は、15号遺構の方台部内南西側に位置し、東側は欠損している。掘り方の形体は長円形で、規模は推定長軸3.20m、短軸1.45m、深さ0.10m、主軸方位N-83°-E、木棺痕の長さは推定1.75mと考えられるが、木棺痕の東側底面の保存状態が不良である。木棺痕の幅は0.80m、深さは0.10mを測る。底面は平坦である。覆土の残存状況は不良だが、3層のローム粒混入暗褐色土が木棺痕の一部とみられる。出土遺物は皆無である。

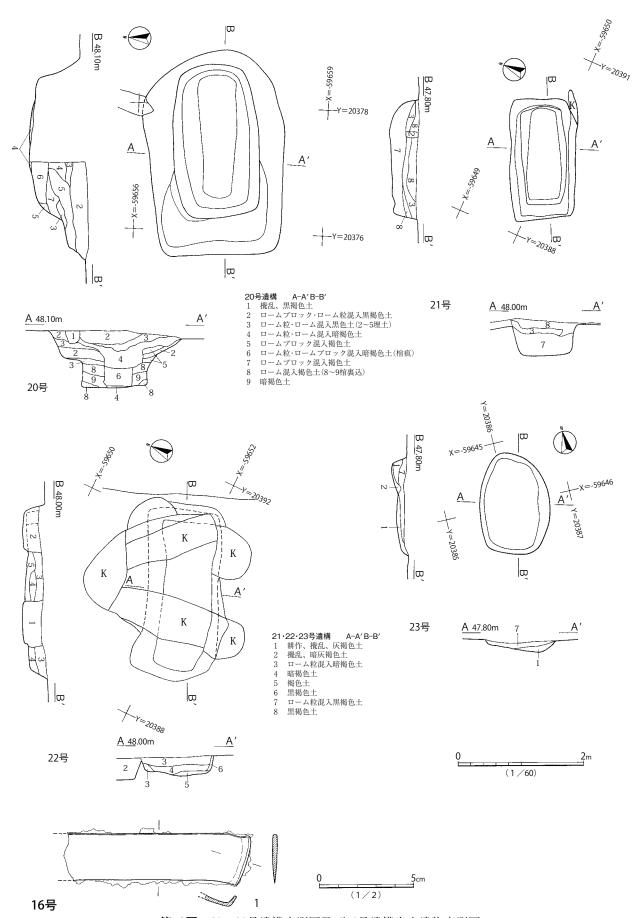
20号遺構(第19図、PL.6)は、14号遺構の方台部内やや南寄りに位置する。掘り方の形体は長円形で、規模は長軸3.30m、短軸2.20m、深さ0.95m、主軸方位N-85°-E、木棺痕は長さ1.95m、幅0.60m、深さ0.30mを測る。底面は平坦である。覆土は8層のローム混入褐色土と9層の暗褐色土が裏込め土、6層のローム粒・ロームブロック混入暗褐色土が木棺痕と考えられる。当遺構は設置された位置などから考えて14号遺構の埋葬施設と考えられる。出土遺物は皆無である。

21号遺構(第19図、PL.6)は、15号遺構の北東側1.50mに位置する。南側0.80mに22号遺構がほぼ並列の位置に存在する。掘り方の形体は長方形で、規模は長軸1.90m、短軸1.05m、深さ0.60m、主軸方位 N-66°-E、木棺痕は長さ1.50m、幅0.55m、深さ0.35mを測る。底面は平坦である。覆土は7層のローム粒混入黒褐色土が木棺痕の可能性がある。出土遺物(第20図、PL.9·13)17は、弥生土器甕底部片で覆土より出土した。18·19は早期条痕文系の縄文土器片である。

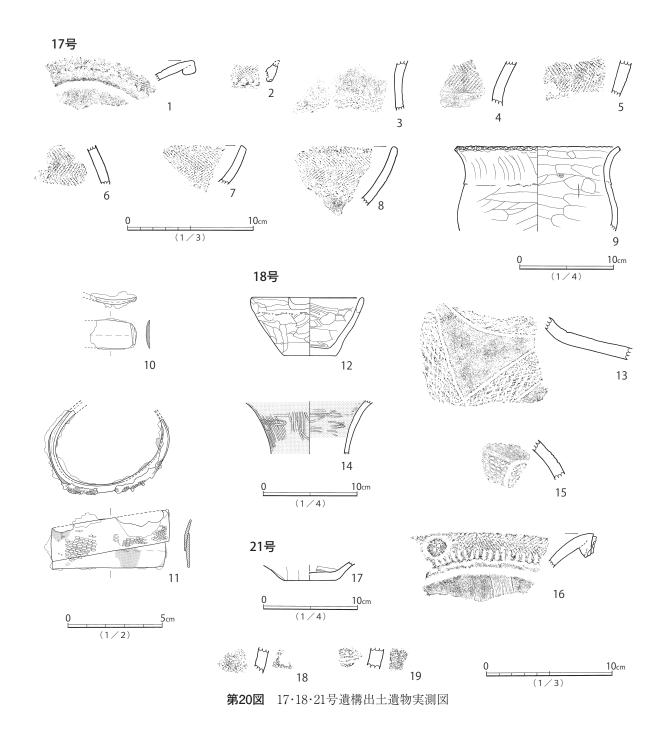
22号遺構(第19図、PL.6)は、15号遺構の北東側1.10mに位置する。北側0.80mに21号遺構がほぼ並列の場所に存在する。南北方向に撹乱土坑が数か所入り、保存状況は不良である。掘り方の形体は長方形で、規模は推定長軸2.72m、推定短軸1.15m、深さ0.39m、主軸方位N-72°-E、木棺痕は不明確であるが、推定長さ2.35m、幅0.78m、深さ0.35mを測る。底面は平坦である。覆土は3層のローム粒混入暗褐色土が主体である。出土遺物は皆無である。本遺構は、設置位置や遺構の方向性から考えて、21号遺構と近い



第18図 16~19号遺構実測図



第19図 20~23号遺構実測図及び16号遺構出土遺物実測図



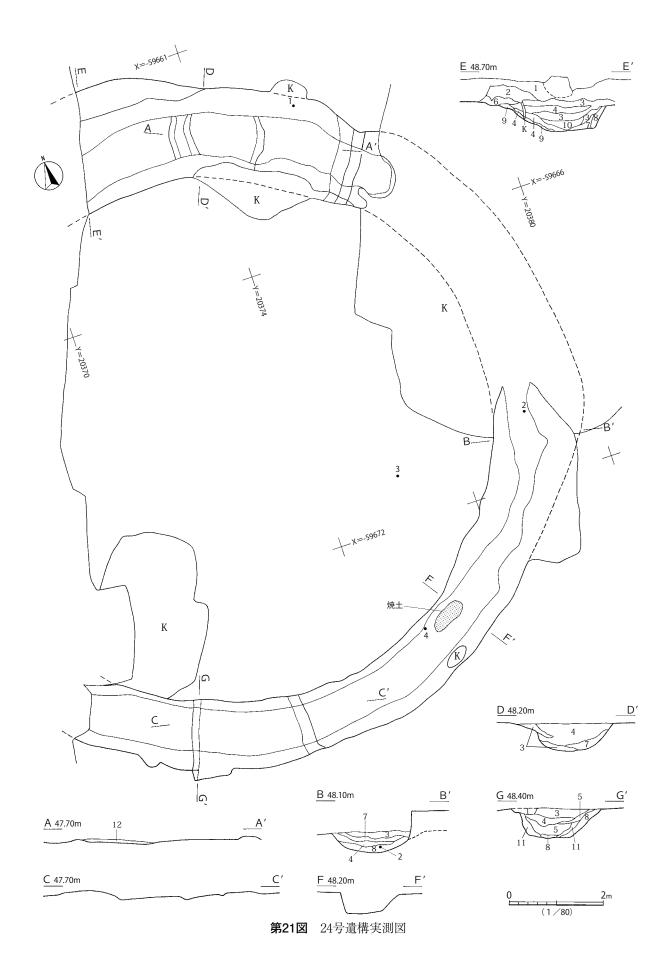
時期に埋葬された可能性がある。

土坑

23号遺構(第19図、PL.6)は、15号遺構の北側1.50mに位置する。掘り方の形体は長円形で、規模は長軸1.60m、短軸1.07m、深さ0.30m、主軸方位N-12°-Eを測る。木棺痕は認められない。出土遺物は皆無である。当遺構は、覆土が21·22号遺構と似ているため同時期の遺構として扱ったが、性格は不明である。

円墳(円形周溝)

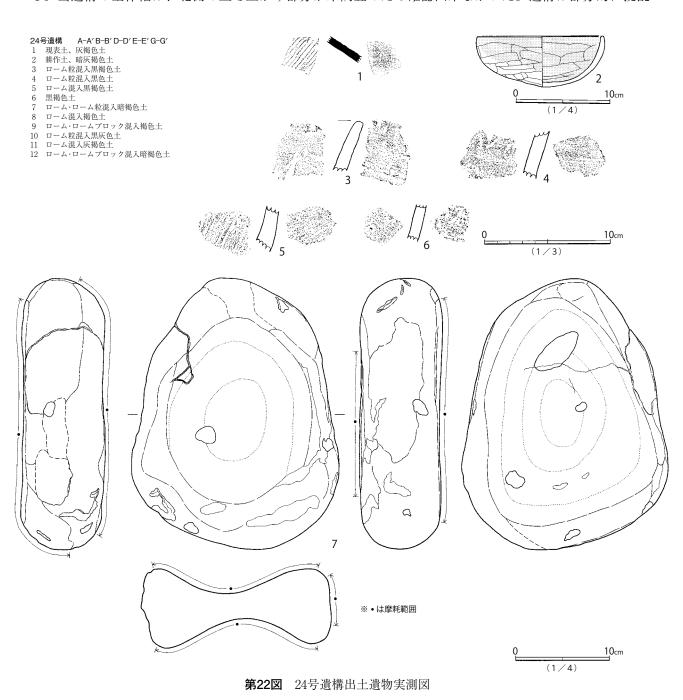
24号遺構(第21図、PL.6·7)は、調査区の南西側に位置し、北側1.60mに14号遺構、南側には13号遺構の北西側周溝が接している。全体プランの西側約1/3が未掘部分である。墳丘は検出できず周溝のみの

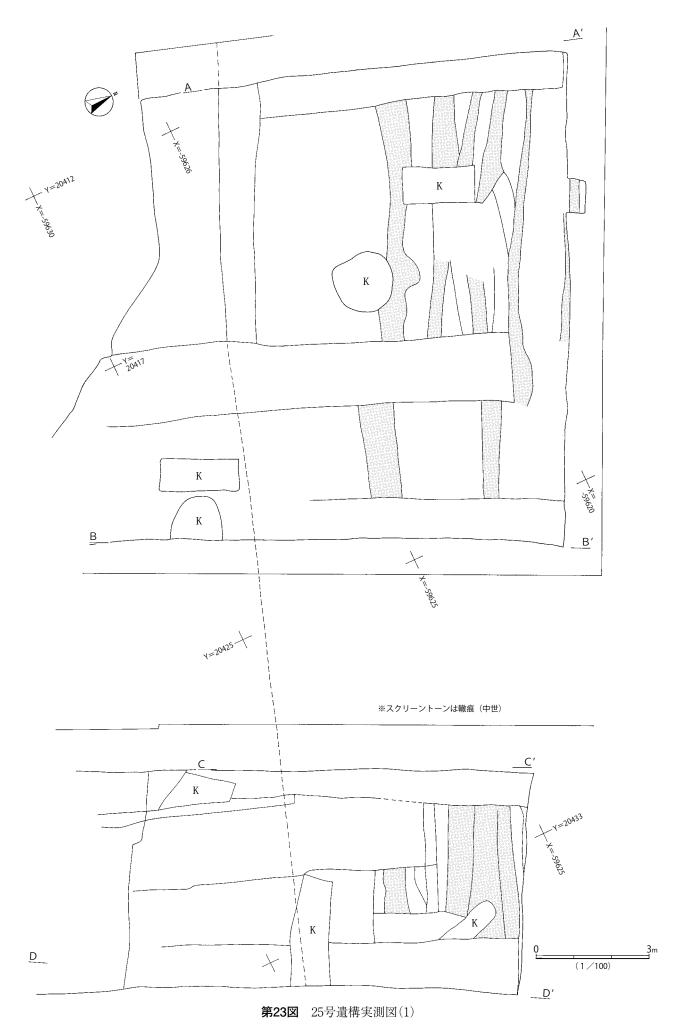


調査である。東側と南西側に大きな撹乱が存在する。規模は周溝を含めた外径が14.84m、内径は11.00m、周溝の幅は1.20~2.40m、深さは0.60mである。埋葬施設は認められなかった。周溝断面は逆台形で、北側と南側の周溝底面に凹凸が見られるが埋葬施設ではない。南東側周溝底面に焼土が見られる。周溝の覆土は3~11層で3層ローム混入黒褐色土、4層ローム粒混入黒色土などを主体とした自然堆積である。出土遺物(第22図、PL.9·13)1は、須恵器甕胴部小片で北側周溝の覆土上層、2は土師器杯で東側周溝の覆土中層から出土している。3~6は早期条痕文系の縄文土器である。7は縄文時代の石皿である。

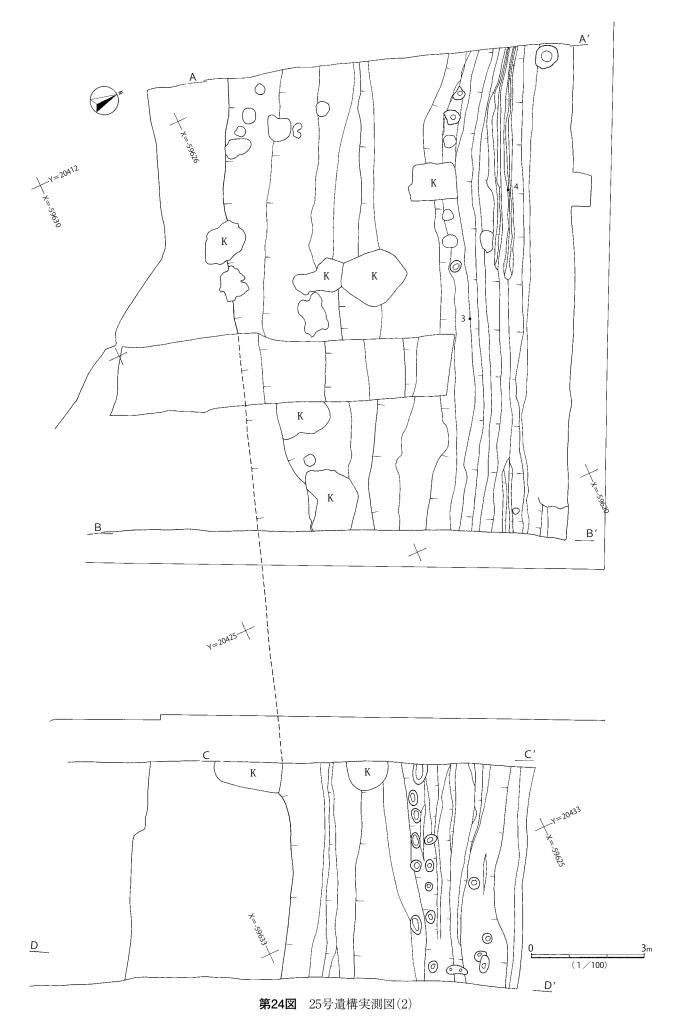
道路状遺構

25号遺構(第23·24·25図、PL.7)は、調査区の北側に位置し、12号遺構のプラン北側を約1/3切っている。当遺構の全体幅は、北側の立ち上がり部分が未調査のため確認出来なかった。遺構は部分的に撹乱

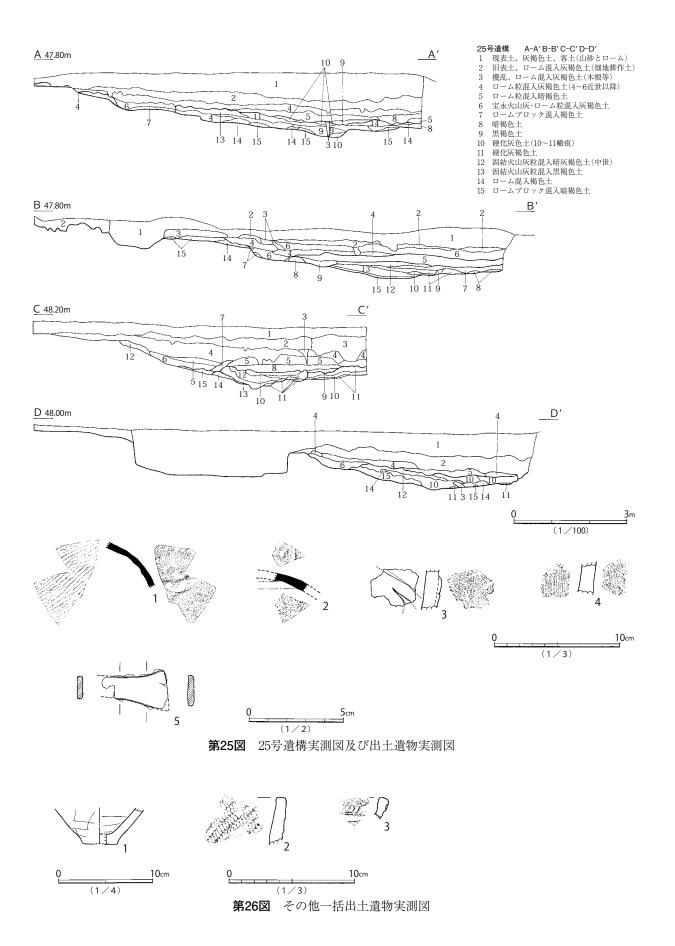




— 24 —



— 25 —



— 26 —

ピットや土坑に切られている。主軸方位はN-66°-Wを示し、検出した幅は9.70m、深さは1.35mである。 遺構の未調査部分を含んだ復元全体幅は約12mと推定している。底面はピットや数条の溝が存在する。 主な覆土は、12·13層が固結火山灰粒混入暗灰褐色土と黒褐色土、10·11層は硬化灰色土と灰褐色土で轍 痕が見られ(第23図)、6層は宝永火山灰(1707年)とローム粒混入灰褐色土である。轍痕のある10·11層は、 6層より下層に存在し厚く堆積しており、近世初めから中世末までの時期を推定した。6層から上層は近 世以降と考えられる。出土遺物(第25図、PL.13)は、遺構に関連する遺物は認められず、1·2は須恵器 で1は甕胴部片、2は壺胴部片、3は形象埴輪片、4は円筒埴輪片である。5は細長い台形状の板状不明鉄 片である。

その他一括出土遺物

出土遺物(第26図、PL.9·13)1は、弥生土器壺底部片、2·3は後期の縄文土器片である。

第2表 挿図掲載外の遺物量

遺構名等	種類	重量(g)	遺構名等	種類	重量(g)	遺構名等	種類	重量(g)	遺構名等	種類	重量(g)	遺構名等	種類	重量(g)
2号	縄文土器	2.3		縄文土器	11.4		縄文土器	212.0	15号	弥生土器	5.2		縄文土器	10.8
25	弥生土器	4.4	11号	弥生土器	817.0	13号	弥生土器	20.8	135	礫	15.8	25号	弥生土器	50.4
3号	縄文土器	17.1	1175	土師器	112.0		礫	412.1	22号	弥生土器	15.2		礫	51.3
	縄文土器	41.4		礫	472.2		縄文土器	501.0		縄文土器	45.7		縄文土器	143.7
	弥生土器	13.9		縄文土器	6.4	1	弥生土器	1691.0		弥生土器	77.8		弥生土器	106.5
10号	焼礫	220.0	12号	弥生土器	9.9	14号	土師器	90.0	24号	土師器	99.8	全体一括	礫	483.5
	礫	2891.7	125				礫	300.0		礫	472.1			
			1				黒曜石	9.8				1		

4 まとめ

本書では、六孫王原遺跡G区1,137㎡についての本調査成果を記載した。

検出した遺構は、縄文時代早期後半の炉穴9基、竪穴建物跡が弥生時代後期2軒、終末期1軒、弥生時 代後期から終末期の方形周溝墓3基(1基は拡張)、土壙墓7基、土坑1基、古墳時代中期の円墳(円形周溝) 1基、中世の道路状遺構1条を検出した。

当遺跡の過去の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物跡88軒、方形周溝墓17基、土壙墓6基、円形周溝2基、道路状遺構3条などが調査されている。当遺跡の北西側に隣接する毛尻遺跡では、弥生時代後期の方形周溝墓4基、竪穴建物跡18軒、当遺跡の北側に位置する原遺跡では、22軒の弥生時代後期の竪穴建物跡などが調査されている。姉崎天神山古墳に近接し当遺跡の北側約1kmの姉崎東原遺跡では、弥生時代から古墳時代後期の約20軒の竪穴建物跡、方形周溝墓1基、円墳2基、前方後方墳1基を検出している。当台地西側先端部の姉崎宮山遺跡でも弥生時代から古墳時代の竪穴建物跡が調査されており、当遺跡の立地する周辺の台地上には弥生時代後期から古墳時代に至る集落や墳墓が連綿と数多く営まれている。

今回の調査でも同じ様相が見られ、竪穴建物跡は弥生時代後期の遺構3軒を調査した。時期は少量の出土遺物や遺構の形体から10·12号遺構は弥生時代後期後半の山田橋式、11号遺構は終末期頃の中台2式(大村2009)と推定される。10号遺構出土の板状鉄片は、A区68号B住居跡(古墳時代前期草刈式)出土の五角形状鉄板より一回り小さいが、一方が曲がった形体に似ている。しかし用途は不明である。

方形周溝墓は3基検出した。13号遺構は、D区の過去の調査と併せた結果、全体プランが判明した。 四隅開口形で一部に盛土が残っている例である。埋葬施設は検出できなかったが、未調査部分のD区と G区間に存在した可能性も否定できない。出土遺物は、D区と併せても少量で、時期を特定できる遺物 は無かった。当遺構の時期は形体などから後期後半の所産と考えられる。 14·15号遺構は、当初14号遺構が構築され、埋葬施設は20号遺構(土壙墓)とみられる。その後、東側に15号遺構を設置し拡張している。埋葬施設は方台部中央(14号遺構東側溝の自然埋没後に設置)の17号遺構(土壙墓)と考えられる。14·15号遺構は、出土遺物から山田橋式から中台式の様相がみられる。

土壙墓は7基検出され、16号遺構は裏込めに粘土が使用されている。出土遺物に底面棺外から出土した鉄製直刃鎌片があるが、これは弥生時代終末期の所産と推定される貴重な例である。18号遺構は位置や主軸方位が14·15号遺構と近似しているため追葬と考えられる。方台部にある16·19号遺構や14·15号遺構の外側に位置する21·22号遺構も、それぞれが並列に近い位置関係にあり、14·15号遺構の追葬の可能性がある。

方形周溝墓と土壙墓は、14号遺構・20号遺構(埋葬施設)→14·15号遺構(拡張)·17号遺構(埋葬施設)→18号遺構(→16·19·21·22号遺構)の変遷を推定した。時期としては、弥生後期中葉から終末期の範疇である。

17号遺構(土壙墓)から出土した鉄釧は、先端部片と環状で2重に重なった破片の計2点が出土している。 先端部片は、形体から2重に重なった破片の1段目と接続する可能性も考えられる。先端部片は、残存の 長さ2.45cm、幅1.50cm、厚さ0.20cm、先端部は弧状で外側へ0.25cmほど折り返している。断面は幅の広 い凸レンズ状である。2重に重なった破片は、2段目が1段目の外側に斜めに巻き付いている状態であり、 螺旋状に巻き上げられた1個体と考えられる。両段とも全周の約3/4弱と外側2段目は上部がわずかに残 存している。大きさは幅1.50cm(1段目)と1.80cm(2段目)、厚さ0.20cm、断面は幅の広い凸レンズ状、内 径は5.00~5.80cmを測る。繊維状の付着物が2段目の外側や内側の一部に残存する。特に外側は単位が 粗い編目状の繊維を確認できる。残存する繊維が釧に巻かれた布の繊維なのか、着ていた衣服の繊維が 付着したものなのかについては不明である。両面の一部には黒い付着物が見られ一部は硬質化している。 分析は行っていないが、鉄の腐食を防ぐため漆を塗布している可能性も考えられる。本資料は部分的な 残存ではあるが、形体は薄い板状で幅も広く断面が凸レンズ状を表わすことなどから、東京都北区田端 西台通遺跡出土の鉄釧に類似し、「螺旋型鉄釧」に含まれると考えられる(牛山1996)(土屋2009)。

24号遺構の円墳(円形周溝)は、墳丘が確認できず埋葬施設も認められなかった。須恵器甕胴部小片とともに、わずか1点ではあるが完形の土師器杯が東側周溝の覆土中層から出土している。大きさは、器高5.40cm、口径13.30cm、丸底でわずかに内湾する。両面赤彩され丁寧な作りであり供献土器と考えられる。加茂遺跡A·B地点V期C(浅利2003)、御林跡遺跡VI期頃(木對2008)に該当すると思われ、5世紀後葉と推定される。当遺跡の円形周溝は、D区で大小2基検出されており当遺構を含めて3基となった。

道路状遺構は、遺跡の北側に位置し、南東から北西方向に走る。推定幅は約12mと考えられる。轍痕のある層は宝永火山灰(1707年)混入層の下層に厚く堆積し、中世末から近世初め頃の所産と推定しているが、時期を特定する遺物は出土していない。当道路状遺構はA区A4号溝状遺構とC区C1号溝状遺構に連結するものと考えられる。当遺構は台地北側を通り東側方面から式内社の姉培神社方面に向かう道路として使用されていたと考えられる。出土した(第25図)3の形象埴輪片は小片であり、特徴は明確ではないが、近傍の原1号墳あるいは山倉1号墳出土品(小橋2004)と比較すると帯状表現が近似する。

縄文時代早期の炉穴は、条痕文系の土器片を少量出土し遺構の密度は薄い。毛尻遺跡や当遺跡の他区でも遺構は検出されていないが同期の土器片は多く出土しており、周辺に炉穴の密集地域が存在することが予想される。少量の土器片のみであるが、前期から晩期に至る縄文土器片の出土は、北側約1kmに

所在する姉崎台貝塚(鬼子母神貝塚)などとの関連も伺わせるものである。

今回の調査では、弥生時代後期から古墳時代中期を中心とする遺構などが検出され、隣接のC·D区などと同様な遺跡の様相が当台地北側縁辺部まで延びていることが判明した。

なお、17号遺構出土鉄釧について、小田原市教育委員会土屋了介氏に御指導いただきましたことを、 末尾ながら記して感謝申し上げます。

参考文献

- ·毛尻遺跡調査会1983『千葉県市原市毛尻遺跡発掘調査報告書』
- ·原遺跡調査会1984『原遺跡』
- ・(財)市原市文化財センター1991『市原市姉崎宮山遺跡・小田部向原遺跡・雲ノ境遺跡』(財)市原市文化財センター調査報告書第40集
- ・(財)市原市文化財センター1993『市原市姉崎東原遺跡B地点』(財)市原市文化財センター調査報告書第51集
- ・(財)千葉県文化財センター1994『石揚遺跡 手賀の丘少年自然の家建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 』千葉県 文化財センター調査報告第255集
- ・忍澤成視1995「1遺跡の立地と環境」P1~4『市原市能満上小貝塚』(財)市原市文化財センター調査報告書 第55集(財) 市原市文化財センター
- ・藤岡孝司1995「螺旋状鉄釧小考 東日本における腕輪の意味 」P201~224『千葉県文化財センター研究紀要16』(財) 千葉県文化財センター
- ・牛山英昭1996「弥生時代鉄釧の一例」P117~127『考古学雑誌81-2』日本考古學會
- ・(財)市原市文化財センター1997『市原市姉崎六孫王原遺跡』(財)市原市文化財センター調査報告書第58集
- ・北区教育委員会1998「七社神社前遺跡Ⅱ」『北区埋蔵文化財調査報告第24集』
- ・大村直2003「古墳時代集落出土の鉄製品」P344~348『考古資料大観 第7巻 弥生・古墳時代 鉄・金銅製品』小学館
- ・小橋健司2004「第3章 考察 第1節 山倉1号墳出土埴輪について」P185~208『市原市山倉古墳群』(財)市原市文化財センター調査報告書第85集 上総国分寺台遺跡調査報告XI (財)市原市文化財センター
- ・浅利幸一2005「第3節 各期の設定と集落変遷」P481~493『市原市加茂遺跡A・B地点』(財)市原市文化財センター調査報告書第94集 上総国分寺台遺跡調査報告書XV (財)市原市文化財センター
- ・櫻井敦史2005「第2節 加茂遺跡A・B地点の中世陶磁器群について」P471~480 以下同上
- ・木對和紀2008「第Ⅳ章 御林跡遺跡5世紀代の土器変遷」P538~558『市原市御林跡遺跡Ⅱ』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第5集 上総国分寺台遺跡調査報告XVⅢ 市原市教育委員会
- ・大村直2009「第4章総括 第1節南中台遺跡と周辺遺跡の土器編年」P299~335『市原市南中台遺跡・荒久遺跡A地点』 市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第10集 上総国分寺台遺跡調査報告XX 市原市教育委員会
- ・土屋了介2009「螺旋状鉄釧の基礎的研究 形態と数量的要素を中心に 」P157~172『日々の考古学2』東海大学文学 部考古学研究室
- ・鶴岡英一2013「第5章総括 第2節竪穴建物の規模と平面形態」P563~573『市原市中台遺跡(本文編)』市原市埋蔵文化 財調査センター調査報告書第24集 上総国分寺台遺跡調査報告XXII 市原市教育委員会
- ・国際文化財(株)2014『市原市海保地区遺跡群 I 海保西竹谷遺跡・海保小谷作遺跡・海保大塚遺跡』
- ·市原市教育委員会2015「六孫王原遺跡G区」『平成26年度市原市内遺跡発掘調査報告』

開整寺															0	・指頭痕。内面ナデ。脚裾部片。	1	・ 内面ハケ目(種)、ヘラケスリ。		ゲ四純人。 外面折り返し口線、S字状結節文(4段)。内面ヘラミガキー部残る(横)。全体に摩耗。	ボル(権) 内面ヘルナ	MRAE LAW C C 国 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	外面ハケ目(横)。内面ヘラナデ(横)後指ナデ。	ナデ。内面ヘラミガキ(横)。 中西・コエンジ松エコ 知識を ::	寅)。内国ヘフナア仮右アナ、赵犇多い。 カイナー七届、コイリジカイナーやや知津木で	/)。 [v] [m] * / / / / /	外面ヨコナデ、指ナデ(横、斜め)、ハケ目(横)、赤彩。内面ヘラナデ(横)後ヘラミガキ(縦)	赤彩。 外面円形浮文、ヘラケズリ(縦)、指頭痕、ヘラナデ(横)後ヘラミガキ(縦)。内面ヘラナデとヘ	ヘラナデと指ナデ。内外面赤彩有り。	外面ハケ目(横)。内面ヘラナデ(横)後指ナデ。 从 南細本い 結雑寺 (1 D) S字比基館寺 (3 B) へ ち ミガキ (縦) 一 赤彩 - 内面へ 与 ミガキ (縦)	/、豆豆 0分		外面指頭圧による波状文、ヘラナデ、胴部ハケ目、指ナデ、下部ハケ目、煤有り。 内面ハケと指ナデ、胴部ヘラナデとヘラミガキ(機)、下部指ナデとヘラナデ。	外面指頭痕、粘土接合痕の段を残す、ヘラナデと指ナデ。内面ヘラナデとヘラミガキ、胴部へ ニュガナ(88) 下が。ニュラ%セュラ ゆか。ニュガキし。ニュラ	・ ファフ 仮扣 アフ、 広即・ フミル オ こ・ ヘファ ア。 ナデ。	fafra イノノ 攻担ノノ。 外面平行沈線と波状文、ヘラミガキ(横)。内面ヘラナデ後指ナデ、剣雕多い。後期。	外面ヘラミガキ(横)。内面ヘラナデ後指ナデ、網離多い。繊維含む。	、一部に横位のS字状結節文、横位沈線、網目状文。内面指ナデ。 8件株式は 海湾で75mm / 知い販売/加工部は主影・中西地であ	外国2子状括甲スや24歳に区国、(一部日万文)棋大郎は亦参。四国右ナナ。 及市2小字群符かな字盤な区国 再支数に非数据と む旧坊中史 権の図97回一個体プロペカス	1歳、内国、熊人中に次を入る。 13世117~。 2012年11日 日子 1750年11日 11日 11日 11日 11日 11日 11日 11日 11日 11日		外面粘土接合痕、ヘラナデ(縦と横)。内面指ナデ。	一部媒付着、ヘラ刻目。内面指ヨコナデ。	※文。内面やや摩耗ぎみ。						外面口縁部斜縄文(RT)、縄文原体による押捺、指ナデとヘラミガキ、S字状結節文2段、羽状細文(RT)(TR)、S字状結節文2段、ヘラミガキ。内面ヘラミガキ、ヘラナデ後指ナデ、粘頭瓶、
		機能にむ。 編雑やむ		繊維含む。	繊維含む。	繊維合む。	微描記む、条張又。 毎等今十、夕声力	微能行む、米根人。	数指にむ。 猫辮令む、冬声か	観話ひむ、米坂人。 細雑会か 名前 ウ	数部口ひ、米灰人の猫猫やむ。	製作 Co	繊維含む、条痕文。	繊維含む。	外面斜縄文(RL)、口唇部斜縄文	課 国	拔	外国ヘフ ハガル(類)。 が国作業を対	外国総が入。	パ面純人。 外面折り返し口線、S	が 面 事 数 嫌 存 の 可	ノド曲のかか、1周上~2つの	外面ハケ目(横)。内回	外面ハケ目調整後指	外国ヘフェガキ(類)。	外面ヘラミガキ後指 外面ヘラミガキ後指	外面ヨコナデ、指ナ	赤彩。 外面円形浮文、ヘラク	ラミガキ、指ナデ、	外面ハケ目(横)。内I 从 面細 かい 公舗 中(1	7月酉7.4.2.2.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1	外面ヘラケズリ後一部	外面指頭圧による液料 と指ナデ、胴部ヘラー	外面指頭痕、粘土接(ランゴキ(線) 下部	フェルキ(靴)、『即* 内外面ヘラナデ後指*	1.7 m 、 / / 仮担 外面平行沈線と波状	外面ヘラミガキ (横)。	外面赤彩、一部に横角を配って	外国2十六指四人を7.4 月 日5 中半年 14 日5 中半年 14 日5 中半年 14 日 14 日 15 日 15 日 15 日 15 日 15 日 15 日	小面らずが相談人を以外面へつによる刻目、	外面粘土接合痕。	外面粘土接合痕、ヘ	外面ヘラナデ(縦)、-	外面斜め縦方向の燃糸文端が合き	数指にいる。 独等令だ。	機能合む、条痕文。	機維合む、条痕文。	繊維含む。	機雑含む。	外面口線部鈴縄文(B 編 文(B1)(1B) S字:
色調	にぶい黄橙	草草	压器		送		明亦飽		恒井畑		だい未褪	反赤 がほ		明赤褐	橙	\rightarrow		にぶい酒	10次	_	_	73.01× PEJ	明赤褐	にぶい樹	匈 沃	にぶい黄橙	明曹楊	おから	9494 PS	明赤褐	にぶい赤褐	橙	にぶい黄橙	灰黄褐	= 整	_	褐灰	にぶい黄橙	はいること	たるが、東日	橙	剱	灰黄褐	ぶい赤褐	拉	赤楊	にぶい槽	にぶい橙	型	翁
	を 良好 点紀	良好	自好	良好	良好	良好	1000年	1000年	良好	1000	自杆	自杆	良好	良好	良好	良好	やや甘い	良好	良好 自好	い年みな	14年	KX.	良好	良好	100年	良好	自好	7 H	- I	良好	良好	良好	良好	良好	い井みな	良好	良好	良好	100年	10kg 10kg	良好	良好	良好	良好	良好	自好	良好	良好	良好	申标
胎土·含有物	砂粒、白色粒、雲母、石英 外部 - 七年報 - 中日	多档、田旬档、楸料是表 石布款 串店	あれ、ゴロボンボル	白色粒、赤色粒、雲母		4111	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	山田南 本 歌 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本	口 一 四 四 四 四 四 四 四 四 四 四 四 四 四	多南、 工の南、 水平 発粒 一工 在 粒 一 例 中	多南、 工 内 南 本 和 本	砂粒、白色粒、雲母	砂粒、白色粒、雲母	13421		印料		が 日本 一 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日	砂粒、口の樹、駅中砂粒、白色粒、半時	中的	r N L L	砂粒、白色粒、雲母	白色粒、赤色粒	11日子	口包粒、銀母	白色粉、赤色粉、雾母		r i	砂粒、田色粒、雲母	砂粒、白色粒	白色粒	白色粒、赤色粒	23.6 白色粒、雲母	山 山 山 山 山		白色粒	- 1	山町村、 崇草 古在詩	1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	かな	白色粒、雲母	白色粒、雲母	日色粒、紫母	参数、 工 を を を を を を を を を を を を を	万有、 工 の有、 水 み 工 の 有、 水 み	1 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	砂粒、白色粒	日色粒、製母	33.5 口在計 非在款 账店
F 最大径																														27.7			21.3	23.9	(293)	(000)														(220)
底径残存																	, see	10部1/4						5	1/1	1/3				5		台部1/3		17	1/2	3														01/0
存 底径							1	1		-		-					(0 11)	(20)						ç	80	(9.7)				8.2		(14.4)		9.3	94	5				-						-	_			ç
自口径残存	1																									ļ	7						1/3	7) 1/3							L									
器種 口径	林 縣	************************************	*************************************	****	深幹	林 縣	は迷り	太太	は光	**************************************	が	· ***		深鉢	家	画杯	麗 :	記する	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	\$ 160 E	48	THE	影	製油	H H		13.1	+	H :	朗	湿	台付甕	※ (20.6)	麗 (19.7)	臺	淡珠	深鉢	相相	開報		湯	影	影	為	************************************	* ************************************	*************************************	機株	熱	明 17.0
	iy i	第 人 思 人 思	+	\vdash	\dashv		$^{+}$	+	$^{+}$	温かい	$^{+}$	$^{+}$	H		Н	+	弥生		2 と と と と と と と と と と と と と と と と と と と	+					+	30年			+	+	弥生	弥生 台	弥生	弥生	歌牛 3	H	H	+	1000年	+	<u> </u>		+	+	第 大 期 大 期 中 期 中 期 中 期 中 期 中 期 中 期 中 期 中 期	+	$^{+}$	Н	+	4 %
	+	発出込	雄十四 20	H	焼土内	+	新七石 本	\perp	+	\perp	\perp	\perp	焼土内	Ш		覆土下層。		瀬十 歩	+	+		覆土上層 "		Œ.			<u> </u>	19	_	80	覆土	覆土	覆土下層。第	覆土下層。第	圏	四里	+1	東 一	+	+	+		+1	瀬十	+	湖十 十 報	+	Н	At	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
取上げNo.	8号1.2 強	956	9-8-5 3-8 章				10年7		10年13 海		10-25-3			1		3号8	2	352—H	- 9	描	6				4万10	5	4 4 2 1 · 3 3	.3.9.12.14.		63.	4号1一括	4号34·36一括	1号4·4号24 覆	1号3·4号26 覆	4号-94 羅十.		- 報一	.;3 ‡		- 中		.7	691一括		2713			押	2岁1一括7-206.07.08.100.109.	
取上げ方法		#1 #1	#FIF	押	点上げ		HTH HTH	MILI FILE	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	H-H	H-H-H-H-H-H-H-H-H-H-H-H-H-H-H-H-H-H-H-	点上げ	点上げ	点上げ	点上げ	点上げ	担当	# T T T	- H	1	(iTw	点上げ	点上げ	ML17	ALU ALU		1 1		ALT.	一	中	点上げ	点上げ	1-1-1-1		井	点上げ] 日 #	부나나	点上げ	点上げ	# 3	ALU TILL	11 H	A FIF	点上げ	押	相	1
	1号遺構	2万通符 20万海维	25海带	2号遺構	2号遺構	3号遺構	3万両年	りか画館	7万周年	8中市権	8中連機	8年連機	8号遺構	8号遺構	10号遺構	10号遺構	10号道構	10万道第	10年連種	11号遺構	数典中1	41.27.22.11	11号遺構	11号遺構	11万道年	11.5 遺構	11 号谱權	機特中11	4157611	11 与遺構	11号遺構	11号遺構	11号遺構	11号遺構	11号谱權	115進梅	11号遺構	12号遺構	12万周年	12.5 海市	12号遺構	12号遺構	12号遺構	135道構	13万尚年	13号連構	13号遺構	13号遺構	13岁遺構	郵供占11
⊠No.	4 1	7 0	4 4	-	4 6	7	φ c	4 4 9 5	01 -		7 7	4 14	4 15		\vdash	2	ω ·	+	0 10	9		\rightarrow	\rightarrow	\rightarrow	0 0	+	×	_	\rightarrow	_	6 11	6 12	7 13	7 14	7 15	7 16	7 17	\rightarrow	7 0	+	9 2	\vdash	2 6		7 0	2 4	111 2	-	11 7	-

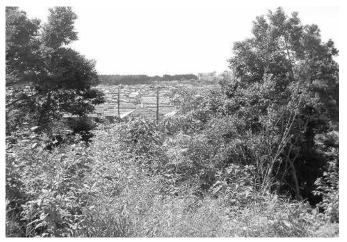
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	MNo.	o. 遺構No.	取上げ方法	表 取上げNo.	層位	種別	器種	口径口径	残存	底径 底径残存	线存 最大径	医器	胎土·含有物	焼成	色調	
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			计十二	7	獨十二層	弥生	相	15.5	1/2		19.3			良好		外面口縁結株状学文、切状離文(LR)(RL)、離文原体による別目(端筋)、影絡ヘラミガキ(線) 赤彩、くびれ部分5字状結節文2段、旧形学文、鈴鶴文(RL)、S字状結節文2段、胴部5字状結節 文3段(1段はヘラミガキで指導文4元でいる)ヘラミガキ、切状端文(LR)(RL)、S字状結節文2段 イカデエス 総織では役、4段の鈴錦本(34光段)上から(RL)(LR)(RL)、「RR)、予路ペラミガキ 内面口縁部ヘラミガキ、赤彩、剣雕多い、頸部ヘラナデ後指ナデ、指頭痕、胴部指ナデ、ヘラナデ後指ナデ、指頭痕、胴部指ナデ、ヘラナデ後指ナデ、指頭痕、
1 1988 1 1989 1 1989 1 1989 1 1 1 1 1 1 1 1 1			点上げ	7\(\frac{7}{7}\)\(\frac{7}{2}\cdot 80\cdot 162\cdot 182\cdot \) 183\cdot 203		弥生			1/2				赤色粒、	良好		外面口線部鈴縄文、ヘラによる刻目、頸部ヘラミガキ(横・縫)、赤彩、S字状結節文(2段)。 内距頸部ヘラミガキ、赤彩。
1 1998 A. L. H. Warn Shandows A. L. H. B. M. B.	_		点上げ	7号109・185・187・212	覆土上層	弥生			1/3				白色粒、赤色粒	良好	_	N面口線部鈴縄文(TK)、縄押圧による刻目、頸部ヘラミガキ(縦)、赤彩。内面口線部ヨコナデ・ヘラミガキ(横)、頸部ヘラミガキ(横) 緑め)、赤彩、剣雛多い。
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	\vdash	Ш	点上げ	7号87-88-90-175-177	覆土上層	弥生	樹						,赤色粒、	良好	-	N面ヘラミガキ(横)、赤彩。内面ヘラナデ後指ナデ。
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			点上げ	7\;\text{7}\text{7}\text{8}\cdot 181\cdot 186\cdot 201\cdot 204	覆土上層	弥生	榈						赤色粒、	良好		外面胴部ヘラミガキ(横)、赤彩、指ナデ(縦)、底部ヘラケズリ(横)。 内面ヘラナデ後指ナデ(横)、 指頭痕。
1988 ALT 1989 CLUB C			点上げ	7567-70-76-77-178	覆土上層	弥生	御							良好		S字状結節文3段、ヘラミガキ、赤彩、 -デ後指ナデ。施文が丁寧。
5 1998 1 1 1 1 1 1 1 1 1	_		点上げ	7 5 108·122·177·192	覆土上層	弥生	御						赤色粒、	良好		外面頸部から (TR) (RL)、S字状結節文、(RL) (TR) (KL)、S字状結節文、ヘラミガキ (欄)、赤彩 均面頸部ヘラミガキ、指頭痕、指ナデ、胴部沈線、指ナデ。
1999 1999			点上げ	77889.94.101.110. 118.170.171.174.207. 210	覆土上層	弥牛			1/4				赤色粒、	良好		外面指による押圧紙、細かいハケ目 (横)、粘土接合紙を残す、指ナデ。内面指ナデ、細かいソケ目とヘラナデ後ヘラミガキ。
11 1958 1951 1952 19			点上げ	7-574-75-79-80-88- 93-181-184	覆土上層		御						赤色粒、	良好		外面ヘラミガキ。内面ヘラナデ後指ナデ。
1993年		\vdash	京上げ	75113	獨土上層無土上屋		相非				П	L L	赤色粒、	良好	黄橙	指ナデ、ヘラケズリ、赤彩有り。内面ヘラケズリ後指ナデ。
19 日本語	14	_	点上げ	7534 75180	復工工層		影網	CC1	+	+	1	2.7	亦巴松、 赤色粒、	良好	別虫物 にぶい黄橙	呉状、ペフミガギ(権)、亦参かわりがに残る。内国ペフミガキやや摩耗。内面ヘラナデ後指ナデ。
日 19 9 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	14 1		点上げ	75173 75-02-110-208	獨十上層		報用	\dashv	\parallel	H			赤色粒、	良好	にぶい黄橙田帯郷	N.面ヘラケズリ。内面指ナデ。 N.西華や戦け本教、内面へ ラ・デ・お・ディングト数本教)
19 (4) 2 (2 kg) 1 (2 kg)	15 1	\perp	点上げ	7号188	獨十上層		1 161		\parallel				日色粒、雲母白色粒、雲母	良好	NA R	アロニスはあのから、7月、ソフト、コロン、ユニのスペン。 外面無文部は赤彩、ヘラミガキ(横)。内面ヘラナデ後指ナデ(横)。
19 日			点上げ	7-8-71	覆土上層	弥生	御							良好		外面無文部は赤彩、ヘラミガキ、ヘラ刻目のある棒状浮文2本、端部はヘラによる刻目。内面 赤彩、ヘラミガキ。
19			点上げ	7-8-72-73-74-75-182- 183-184-187	覆土上層		뒘						白色粒、雲母	良好		
20.11 (1982年 2017 1979 1979	15 1	\perp	点上げ	7号81·108	覆土上層			\parallel	\parallel				白色粒、雲母	良好	415.379	内面へラナデ後指ナデ。 内室加みがユキが、496/4844-42、第466/484-42、3
19.5 19.5	15 2	_	点上げ	75 191 75 92	後士上層 覆土上層								日色粒、雲母白色粒、雲母	良好	ぶい寅橙	外面無文部は赤彩、沈線(横位)、卑節斜縄文(RL)。 外面無文部は赤彩、ヘラミガキ、横位の羽状縄文を沈線で区画。内面指ナデ。
1995 1995	15 2	\perp	点上げ	7号61・64・190・192	覆土上層		幮	\parallel					台灣	良好	にぶい黄橙	外面無文部は赤彩。内面指ナデ(横)。
2 15 2 3 3 4 3 3 3 4 3 3 3 4 3 3 3 4 3 3 3 4 3 3 3 4 3 3 3 4 3 3 3 4 3 3 3 4 3 3 3 4 3 3 3 4 3 3 3 3 4 3 3 3 3 4 3 3 3 3 4 3 3 3 3 4 3 3 3 3 4 3 3 3 3 3 4 3			点上げ	7575 1153	後土上層							- 443	粒、赤色粒、	やや甘い良好	にぶい寅橙明黄褐)。 ?キ、沈線(横位)、羽状縄文。内面ヘラナデ、指ナ
159条連載	15 2		点上げ	7号182·185	1.1	弥生	榈						,赤色粒、	良好		子。 四亚如四十二位————————————————————————————————————
2 159金階 点上19 795-1 開土上層 条生 豪			点上げ	1154 7545	ᅫ	弥任 弥任	田相	\parallel	\parallel		\parallel		亲母 白色粒、雲母	良好	位 にぶい黄橙	. ヘフェフェ(顔)、円兆押比(下近に顔位の沈線)。内皿指ナア、粘工站付浮文、ヘラ刻目、折返し口縁。内面赤彩。
159金編像 点上1 7951 1952 1		1	京上げ	7号47·51 7号9	ᆀ	弥牛		+	+		+		山色粒、駅中 山色粒、海線	良好自杯	ぶい黄橙	站付浮文、ヘラ刻目、折返し口縁。内面赤彩。 第14ヘラナデ 単節鈴鑼マ(RI) 端部は縄文原体細巻による刻
1998		$\perp \perp$	HELF.	7.951	覆土上層	1 1	1 101 11	H	\dagger	$\frac{ }{ }$	H		100万、55号 山色粒、映印 100种、静印	良好います。	1 學 2	【作用券による刻目、ハケ目。内面赤彩、ヘラミガキ
15号連携 点上げ 79-23-55		_	原上げ	7834·35·37	後上上層								TD N 、	かん 良好	恒明黄褐	クトロエ治師に触入原体研験による約日。 内面指ナデ(横)。
15号連携 点上げ 7931 25号連携 点上げ 7931 25号連排 点上げ 7931 25号= 25号= 25号= 25号= 25号= 25号= 25号= 25号=	. 91	\vdash	点上げ	7 9 29·55	獨十上層獨十上國	1 1	相相	+	\parallel		\parallel		白色粒、雲母	良好自杯	П	外面S字状結節文、ヘラミガキ(横)。内面指ナデ。 Nm 幅 ケ絮は未変。
10 1553連構 点上げ 7931 複土上層 寄生		+	ALI)	7号31	覆土上層		HH H	\parallel	\parallel					良好	位	rpm 無文部は赤彩。内面指ナデ。 外面無文部は赤彩。内面指ナデ。
1 14.15分離格 一括 7963—指 亦生 鉢本 前本 前本 自命数、業時 自命数、素時 自命数、素時 自命数 本時、業時 自命数 自命数 本時、高月 自由、表別 日本の数 日本数 日本数 表時 時期 日本数 日本数 書戶 日本数 表別、成南合か、東西教、書母 自分 本期、本事 本期、本事 本期、本事 本期、本事 本期、本事 本期、本事 本事 工作 工作 </td <td></td> <td>\perp</td> <td>点上げ</td> <td>7531 7546</td> <td>覆土上層 覆土上層</td> <td>密密</td> <td>高杯</td> <td>\parallel</td> <td>\dagger</td> <td></td> <td>\parallel</td> <td></td> <td></td> <td>やや甘い良好</td> <td>にぶい黄橙にぶい赤褐</td> <td>全体にやや摩耗。 期部内部ヘラケ</td>		\perp	点上げ	7531 7546	覆土上層 覆土上層	密密	高杯	\parallel	\dagger		\parallel			やや甘い良好	にぶい黄橙にぶい赤褐	全体にやや摩耗。 期部内部ヘラケ
2 14.159选階 一括 7957 上邮器 済本 (4.0) 1/3 178		-	井	7号63一括			林			-	112	1		良好	にぶい槍	外面端部はヘラによる刻目。内面ヘラナデ(横)。
14 15 15 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		? 14-15号遺構		77-57		十二	自杯			_			白色粒	良好		- 1
14 15 15 15 15 15 15 15	17 5	3 14·15号遺構 i 14·15号遺構		7 <i>8</i> 27 7 <i>8</i> 4·7·21		上部器	滋味	+	+	-	\top		雲母 赤色粒、	良好良好	橙 にぶい黄橙	- デと指ナデ、赤彩 (底部含む)。内面ハケ目と指ナデ、胴部指ナデ、
4 (4.19) 定義的	17 (3 14・15号遺構		7915		縄文	機器						赤色粒、	良好	灰黄	機能合む。 2. 第二時が対し - 《三世伝史・中歴史・中歴史・神田
14 15号連携	17 8	/ 14・15万遺傳 / 14・15号遺構		1151—指 7857		開業人文							H 田 和 、 妻	良好	赤灰	5刹目、ヘフ刺矢人。内固刺矢人、小が人。 条痕文。
11 (4-15) 受進幣	17 5) 14·15号遺構		75138		組文	為 別		\parallel				白色粒、雲母	良好	にぶい橙	
12 14.15分離構 一括 796.20.991.2 和文 深鉢 白色粒、紫母 良好 检心 13 14.15分離構 一括 79.8 和文 深鉢 自色粒、紫母 良好 1.55小槽 14 14.15分離構 一括 79.19 和文 深鉢 自色粒、紫母 良好 1.55い指 15 14.15分離構 一括 79.19 和文 深鉢 自色粒、紫母 良好 用水組 15 14.15分離構 一括 79.19 和文 深鉢 自色板、紫母 自免板、紫母 良好 用水組 15 14.15分離析 一括 79.16 和本 25.7 和本 用水組	17 1			7561 75138		離文	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *							をお田い良好	ぶい橙	数雑合む。 安行式。
12 14-157-25mm				0.9号1		編文	林 5	\parallel	\parallel		\parallel			良好	检验	戦機合む。 は戦争をする
15 14 15 14 15 14 15 14 15 14 15 14 15 14 15 14 15 14 14	17 1	3 14・125場件 4 14・15号遺構		77518		龍文	*************************************	+						良好	にぶい 黄橙	数離台む。
	17 1	5 14·15号遺構	1	78195		縄文	為账						.	良好	明赤褐	機構含む。

取上げ方法 取上げNo. 層位 種別 器種 口径 口径換存 底径 一括 7号31 網文 深鉢 一括 7号15 網文 深鉢 一括 7号104 網文 深鉢 一七 7号34 網文 深鉢	取上げ方法 取上げ方法 取上げが。 層位 種別 器種 口径 内径 成 底径 一括 79:15 網文 深峰	取上げNo. 層位 種別 器種 口径 口径時存 底径 7号31 網文 深峰 7号15 網文 深峰 759.104 網文 深峰	種別 器種 口径 口径残存 成径 離文 深鉢 瀬文 瀬文 瀬本 瀬本 瀬文 瀬本 瀬本 本本 本本 本本 <	器権 口径 口径 成径	口径 口径残存 底径	口径残存 底径	残存 底径		底径残。	底径残存 最大径	超路	胎士·含有物 白色粒、雾母 白色粒、雾母 白色粒、雾母 白色粒、雾母	機成 良好 良好 良好	色調	調整等 繊維含む。 機維含む、条痕文。 機維含む。
14.15号道像 一括 7号34 翻文 深幹 14.15号道像 —括 7号34 編文 深幹 14.15号道像 —括 7号363 - 括 等率	一括 7号34 縄文 一括 7号3-括 縄文 4 75-30 縄立	7 5 34 細文 7 5 63一括 細文 7 5 530	+	+	深深深深深深深深			+			111111	白色粒、雲母 白色粒、雲母 白色粒、雲母	良好良好	極極質	機構合む。 機構合む。 基準等や、タボナ
- 76 1/3-04 龍文 - 74 7-856 - 44 7-856	- 76 1/3-04 龍文 - 74 7-856 - 44 7-856	7963一括 縄文 17号56	++	++	深 深 淡 淡 淡 淡 淡 淡 淡 淡 淡 淡 淡 淡 淡 淡 淡 淡 淡 淡			+			111111	口 () () () () () () () () () (良好自存	黄褐がい帯橋	
一括 7号193 一括 7号57 二柱 7号57	一括 7号193 縄文 一柱 7号57 縄文	7号193 組文7号57 翻文	++	++	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						(A) 1		良好	-	やや粗い沈線と刺突文。前期。 繊維令が、田形前空か、鑞ヶ島かが、
一括 7号168 組文	一括 7号168 組文	7号168 網文	+	+	深幹						1 (40)	砂粒、白色粒、雲母	良好	黄橙	数権合む。前期。
	—括 11号1—括 縄文 4 11号1 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	11号1一括 縄文	+	+	深峰			+			ш	白色粒 海原	良好	にぶい樹	外面ヘラミガキ、ヘラ刻目、沈線、斜縄文(KL)。内面ヘラミガキ。中期、加曽利B式。 周雲松和戸 領本の集本に何ます台の書、浄鷺を歩す。 古書 こまら ※問
報		7.531 細文			生 						1171	TD 村、水平 工在村、桃中	良好	===	クト囲行が圧、粗火の退入に奔め方向の夜でが飛ぎ廻り。四回へフリケ。後朔。 安行式。
一括 77号58 網文	一括 77号58 網文	7.号58 縄文			深鉢			+			1,111	白色粒、雲母	良好	黒褐	安行法。
一括 7 5 135 一括 7 5 57	一括 7号135 縄文 一括 7号57 縄文	79135 縄文 7857 縄文			深鉢浅浅			_			ш ш	白色粒 白色粒、雲母	良好良好	にぶい赤褐にぶい赤褐	安行式。 後期、加曾利B式。
7号31 縄文	一括 7·号31 縄文	7号31 縄文	H	H	浅鉢			Н				白色粒、雲母	良好	-	後期、加曽利B式。
14-15号遺構 一括 7号221 中世 擂鉢	一括 7号221 中世	7号221 中世			相鉢							白色粒	良好	黒褐	外面ロクロヘラケズリ。内面縦横の交差する擂目。内外面錆釉。瀬戸美濃系、古瀬戸後期IV班 ~大無期。
- 点上げ 7号143 覆土上層 弥生	- 点上げ 7号143 覆土上層 弥生	7号143 覆土上層 弥生	弥生		相			Н			ш	白色粒、雲母	い井みみ		複合口縁、細かいが網文。
点上げ 7号159 覆土上層 弥生	点上げ 7号159 覆土上層 弥生	7号159 覆土上層 弥生	弥生	+	樹土			+			ш	的称:	良好	にぶい樹	内面赤彩。複合口緣、羽状縄文、端部押捺。
2	により 755・138 後江上僧 別任 古上げ 7年134 瀬十上曜 脱牛	7/55·138 後11.1/2 弥生 7/81-34	50年	50年	目相		+	+			11/11	山田村、駅中 白色野 銀中	良好	無色でない帯路	外国無文部ヘフェカキ(権)。 内国亦参、ヘフェカキ(権)、使国の予決結盟文。 私拒離存の因決舘セを決緒を反雇。 内拒据キデ
点上げ 7号145 覆土上層 弥生	点上げ 7号145 覆土上層 弥生	7号145 覆土上層 弥生	弥生	弥生	相相			Н			1711	白色粒、赤色粒、雲母	良好	-	外面羽状縄文(RL)(LR)。内面指ナデ。
点上げ 7号140 覆土上層 弥生	点上げ 7号140 覆土上層 弥生	7号140 覆土上層 弥生	弥生	弥生	細:			\dashv			ш,	(集中	良好		外面斜縄文3段(RL)(LR)(RL)。内面指ナデ。
17号遺構 点上げ 7号163 複土上層 弥生 熱 17号潰構 点上げ 7号145 覆土上層 弥生 練	点上げ 7号163 複土上層 弥生	7号163 複土上層 弥生 7号145 7S145 7S1	弥 生	弥 生	2000			+				日色粒、赤色粒、雲母 白色粒、赤色粒、雲母	良好	におい面積におい曲橋	外回単節鈴縄文(LK)、S字状結節又。内面赤彩少し残る、ヘラミガキ。 外面無文部は赤彩、単節鈴縄文(RI)、S字状結節文。内面ヘラナデ。
点上げ 7号131·141·154·156	点上げ 7号131-141-154-156 覆土上層 防生 選 170 1/	7号131·141·154·156	弥生 薨 17.0 1	瀬 17.0 1	17.0 1	-	7,			17.6	- 11	白色粒、赤色粒、雲母	良好	にぶい黄橙	外面指頭圧による波状文、ヘラナデ後指ナデ(縦)、ヘラナデ後指ナデ(横)。内面ヘラナデ後指 ナデ(横)、柳圧痕残る。
18号選擇 点上げ 7号198 底面 弥生 楠 11.7 1.72 5.5	点上げ 7号198 底面 弥生 椀 11.7 1/2	7号198 底面 弥生 椀 11.7 1/2	弥生 椀 11.7 1./2	椀 11.7 1/2	11.7 1/2	1/2	7,		17	12.0	6.2	赤色粒、雲母	良好	にぶい黄橙	外面ヨコナデ、粘土接合紙、ヘラナデ後指ナデ、底部ヘラナデ。内面口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ、胴部ヘラナデ後指ナデ、指頭痕、指ナデとヘラナデ、底部ヘラミガキ。
18号道機 点上げ 7号115 擬土下陽 粉牛 壺 18号連機 占上げ 7号107-911 瀬十下陽 珠牛 埼	点上げ 7号115 覆土下層 弥生 占上げ 7号107-211 羅十下屬 弥生	7号115 覆土下層 弥生 7号107-211 第十下層 弥中	弥生		1604 1460						шш	白色粒、雲母 白色粉。赤色粉。雲母	良好自杯	橙田赤楊	外面S字状結節文を交差させ沈線で区画、無文郡に赤彩。内面指ナデ。 外面へうミガキ、内面へうミガキ (増)、ヘラナデア指ナデ。内外面赤彩。
点上げ 7号151 覆土 弥生	点上げ 7号151 覆土 弥生	7号151 覆土 弥生	弥生		超			H			1111		良好	橙	外面刺突文の集合を弧状の沈線で区画。内面指ナデ。
	7号199 覆土下層 弥生 壺 二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	7号199 覆土下層 弥生 壺 二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	弥生 壺	相料		1	ı	+			ш	白色粒、寒母	良好	犂	外面赤彩、縄文原体押捺、ヘラミガキ(縦)。内面赤彩、ヘラミガキ(横)。 12
21号道階 一括 14号1 覆土 郊土 売 21号遺構 一括 14号2一括 覆土 縄文 深鉢	一括 14号 複工 弥生 売 一括 14号2 一括 14号2 イ	14号1 微土 弥生 売 14号2-括 覆土 縄文 深鉢	斯生	深熱		5.5	5.5	-	7		шш	日色粒、雲母 白色粒、雲母、石英	良好やや甘い	におい着におい着	外面ヘラケスリ(ナデ)。内面指ナデ。 繊維含む。
——括 14号2─括 覆土 縄文 ¾	—括 14号2—括 覆土 縄文	14号2一括 覆土 縄文	縄文	Н	深蘇			Н			ш	白色粒、雲母	い具みよ	にぶい橙	繊維合む。
24号道階 点上げ 5号15 後土上層 須恵器 売 24号池権 占上げ 5号4 瀬十中屋 中価器 杯 133	点上げ 5寺15 後土上層 須恵器 親 占上げ 5号4 瀬十中區 十師器 杯	5号15 後土上層 須恵器 売 5号4 獨十中屬 十価器 杯	須馬 十 十 二 十 二 十 十 二 十 十 二 十 十 二 十 十 二 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十	點灰	Ŧ	133	+	+		136	54	日色粒、崇诗 砂粒、白色粒、寒母	良好	トナリーア 町普福	外田平行タタキ目。内田同心円アテ目(指ナデ後に薄く残る)。 外面口縁쐶ヨコナデ、驅綿ヘラケズリ、一部赤彩、内面ヘラナデ後粘ナデ、赤彩、穿形。
点上げ 5号5 覆土 縄文 深鉢	点上げ 5号5 覆土 縄文 深鉢	5号5 覆土 縄文 深鉢	縄文深鉢	機機	-			Н			П	砂粒、白色粒、雲母	良好		VALUE OF THE PART
点上げ 5号11 覆土 縄文	5号11 覆土 縄文	5号11 覆土 縄文	網文	H	深蘇			H			ш	白色粒、雲母、石英	い具みよ		繊維含む。
——括 5号1—括 覆土 縄文	——括 5号1—括 覆土 縄文	5号1一括 覆土 縄文	縄文	\dashv	深鉢			+			Ø.		良好	橙	繊維含む、条痕文。
- 一括 5-5-2 覆土 縄文 ⅓	一括 5号2 覆土 縄文	5号2 覆土 縄文	縄文	\dashv	淡軟			\dashv			(d)	砂粒、白色粒、雲母	い用なな	にぶい褐	繊維含む。
25号遺構 一括 1号7·8 養土 須恵器 業 25号遺構 一括 1号6 難十 須申監 並	197.8 機士 須恵器 186 瀬十	197.8 機士 須恵器 186 瀬十	漫画語	+	新 · 传			+			шп	山色粒 山色数	良好自杯	下 ボールブ	外面平行タタキ目。内面同心円アテ目(指ナデ後に薄く残る)。 外面ヘラケズリ(糖)、熱強く付着。内面回転ナデ。
点上げ 1511 覆土 形象植輪	点上げ 1号11 覆土 形象植輪	15.11 覆土 形象埴輪	形象埴輪					-			1 111	日色核	良好		カーボーン・アン・アード・アード・アード・アード・アード・アード・アード・アード・アード・アード
25号遺構 点上げ 1号10 瀬土 口価埴輪	1510 獨十	1510 獨十	+	日倍道輪				+			4	砂粒、白色粒	良好	にぶい赤褐	即から 内外面ハケ目。
一括 全体一括 弥生	一括 全体─括	全体一括 弥生 壺	弥生 壺	樹	樹	(3.6)	(3.6)	П	1/6		ш	白色粒、石英	良好	₩	外面ヘラナデ(横)、ケズリ。内面ヘラナデ後指ナデ(横)。
全体一括 括 全体括2 親文 深鉾 人 本体 - 1 本 - 4 本 - 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	一括 全体-括2 親文	金体一括2	+	+	※終			\neg			ш,	口色粒、寒中 口色数 樂中	良好	浅黄	外面鈴縄文(LR)。内面ヘラナデ(ミガキに近い)。後期。 ※期
TH:P-H2	- 拉 王'种拉2	王帝一指2	┨	\forall	1324		1	\forall			-	11年代、別中	RWI	٦	次州。

鉄製品·石製品観察表 第4表図200

				0,	俎	0			
備考	11.3 五角形で三角形部分をほぼ垂直に曲げて立ち上げる。		27.2	8 外面中央にわずかな稜、断面凸レンズ状、先端部0.25cm折り返し。	螺旋状、2巻残存、断面凸レンズ状で外面中央にわずかな稜、外径	21.9 1段目6.0cm、2段目6.3cm、内径5.0~5.8cm、2段目両面に繊維残る。	両面の一部に漆?付着。	0.0 浅黄色、凝灰質砂岩。	鎌浩片。一端部が幅広い。
(g) 再重	11.3	9.7				21.9		7900.0	4.4
最大厚	0.3	0.5	基部0.25	0.2		0.2		8.8	0.3
最大幅	(2.5)		基部2.45	1.5	1 675 12 1 2	1代日13	0.1 H X+2	22.0	(5.1)
最大長	(2.55)		(6.7)	(2.45)				28.7	(342)
素材	徽	鉄	鉄	鉄		嶽			鉄
器種	3号一括 覆土 鉄製品 板状不明鉄片	板狀不明鉄片	鉄製直刃鎌	鉄釧		鉄釧		Ⅲ丛	板狀不明餘片
種別	鉄製品	鉄製品	底面 鉄製品	底面 鉄製品		底面 鉄製品		型型	鉄製品 板
o. 層位	獨土		底面	底面	L	底面			
取上げN	3号一括	7号63一括	7\2.11	7 8 2 6		7号24·25		5813	9 4 1
取上げ方法	出	一	点上げ	点上げ		点上げ		一年	1
通 衛 No.	10号遺構	14-15号遺構	16号遺構	17号遺構		17号遺構		24号遺構	25号请權
⊠No.	2	4	_	Ξ		Ξ		2	23
×	ro	17	19	20		20		22	25

無 ■ (S/	11.3 五角形で三角形部分を	7.6	27.2 基部曲り0.7cm。	18 4 4 50 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
サンドー	0.3	0.5	基部0.25	0 0
出くが	(2.5)		基部2.45	,
とくさ	(2.55)		(6.7)	(1, 0)
#11J	鉄	鉄	鉄	200
台げ (黒	板状不明鉄片	板狀不明鉄片	鉄製直刃鎌	And Ann
1H/00	鉄製品	鉄製品	鉄製品	And Sheet part
/101 12	覆土		底面	the same and
4KT LIJING	3号一括	7号63一括	7号2·11	00011
松上い 70 (な) 松上い 1NO. /暦	對一	一茄	有上げ	De 1 10
JETHETAU.	10号遺構	14-15号遺構	16号遺構	of the last total
DITAO.	2	4	_	0,
Ŕ	2	17	19	0



遺跡遠景(奥の台地上が遺跡、天神山古墳から南方向を望む)



調査前の状況 (南西側付近を北東側から望む)



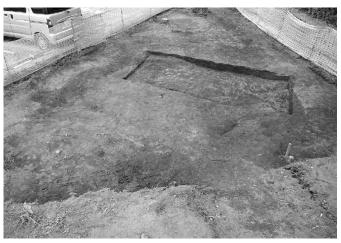
調査前の状況(北側)



調査前の状況 (北東側)



調査状況(南西側の遺構プラン検出)



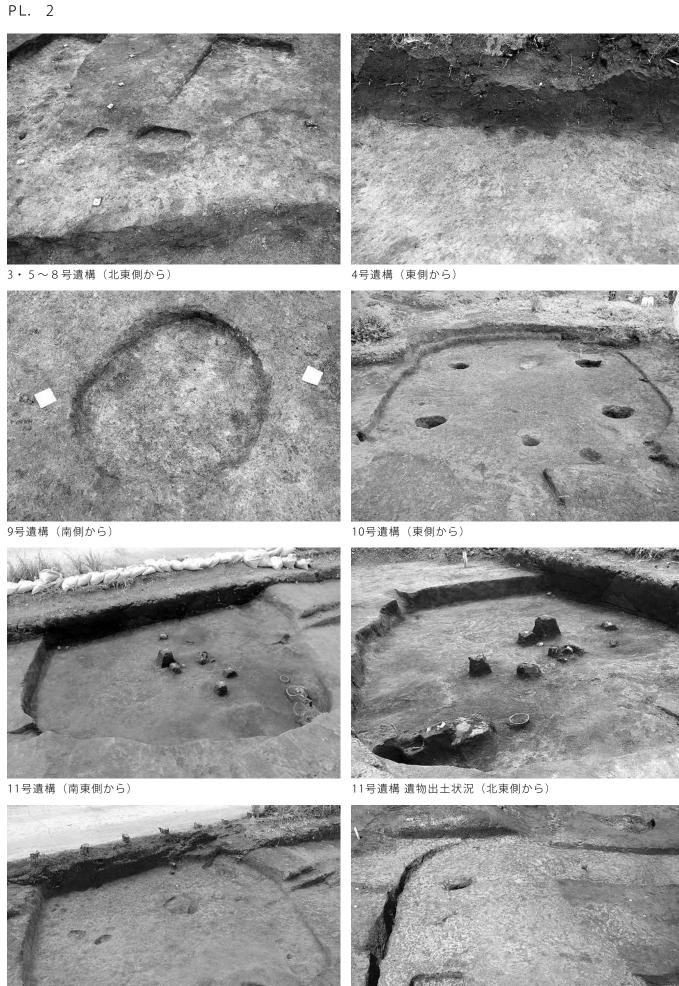
調査状況(東側の遺構プラン検出)



1号遺構(北側から)



2号遺構(南東側から)



11号遺構(南東側から)

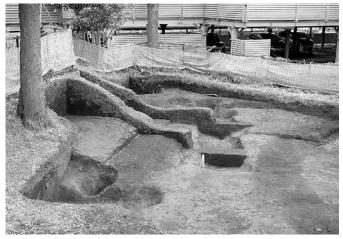
12号遺構(東側から)



13号遺構 調査状況(北西側から)



13号遺構 調査状況(北西側から)



13号遺構 調査状況(北東側から)



13号遺構 (北西側から)



13号遺構 盛土土層断面(北西側から)



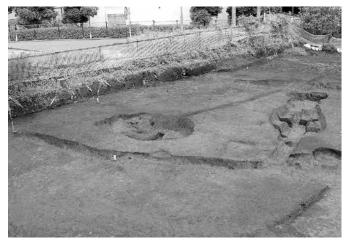
14・15号遺構付近プラン確認状況(南側から)



14・15号遺構 (南側から)



14・15号遺構(北東側から)

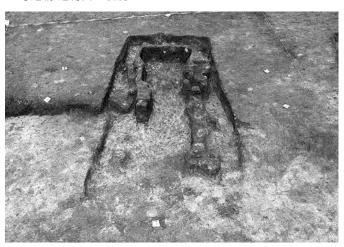


14号遺構(南東側から)

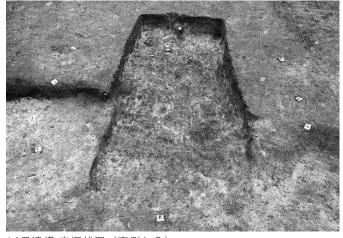




15号遺構(南側から)



16号遺構 裏込め粘土残存状況(東側から)



16号遺構 完掘状況 (東側から)



17号遺構 (西側から)



17号遺構(東側から)



17号遺構 遺物出土状況 鉄釧 20図-11 (左)·10 (右)



17号遺構 鉄釧出土状況(20図-11)



17号遺構 完掘状況(南東側から)



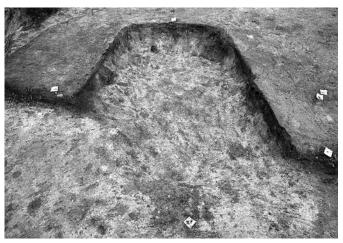
18・19号遺構(北東側から)、手前は15号遺構南側溝



18号遺構 (南側から)



19号遺構(東側から)



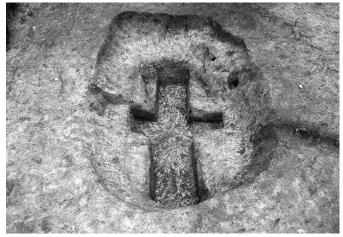
19号遺構 完掘状況 (東側から)



16~19号遺構周辺(南側から)



16~19号遺構周辺(西側から)



20号遺構 (東側から)





21号遺構(東側から)



21号遺構 完掘状況(東側から)



22号遺構(西側から)



23号遺構(南側から)



24号遺構 プラン確認状況(東側から)



24号遺構 完掘状況(東側から)



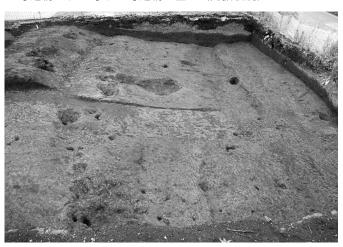
24号遺構 土師器杯出土状況



13号遺構から15号と24号遺構を望む(完掘状況)



25号遺構中世面の状況(轍痕が認められた)



25号遺構 (東側から)



25号遺構(南側から)



25号遺構 土層セクション (C-C')



25号遺構 (西側から)



25号遺構(北西側から)









11号遺構7(第6図)



11号遺構8(第6図)



11号遺構9(第6図)



11号遺構10 (第6図)



11号遺構12 (第6図)



11号遺構13(第7図)



11号遺構14 (第7図)



11号遺構15 (第7図)



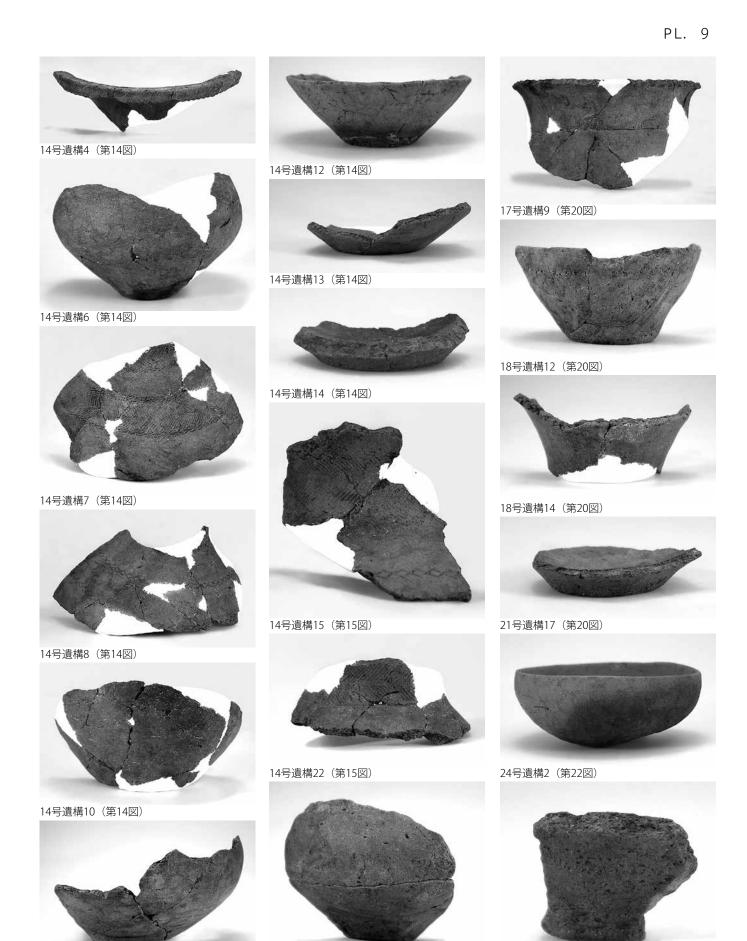
14号遺構1 (第14図)



14号遺構2 (第14図)



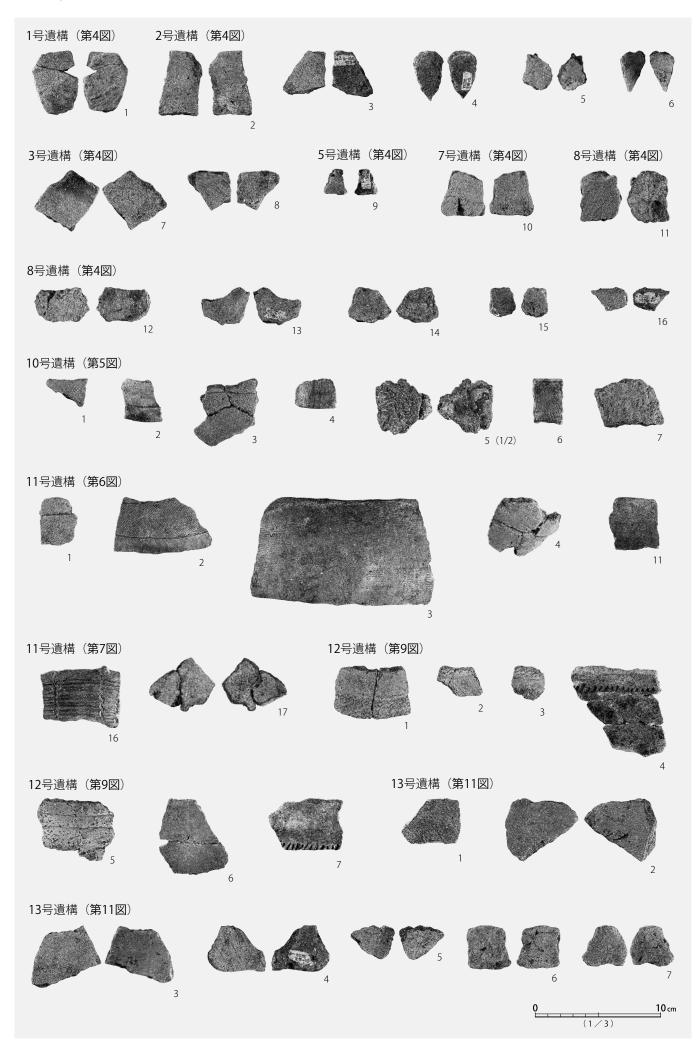
14号遺構3(第14図)

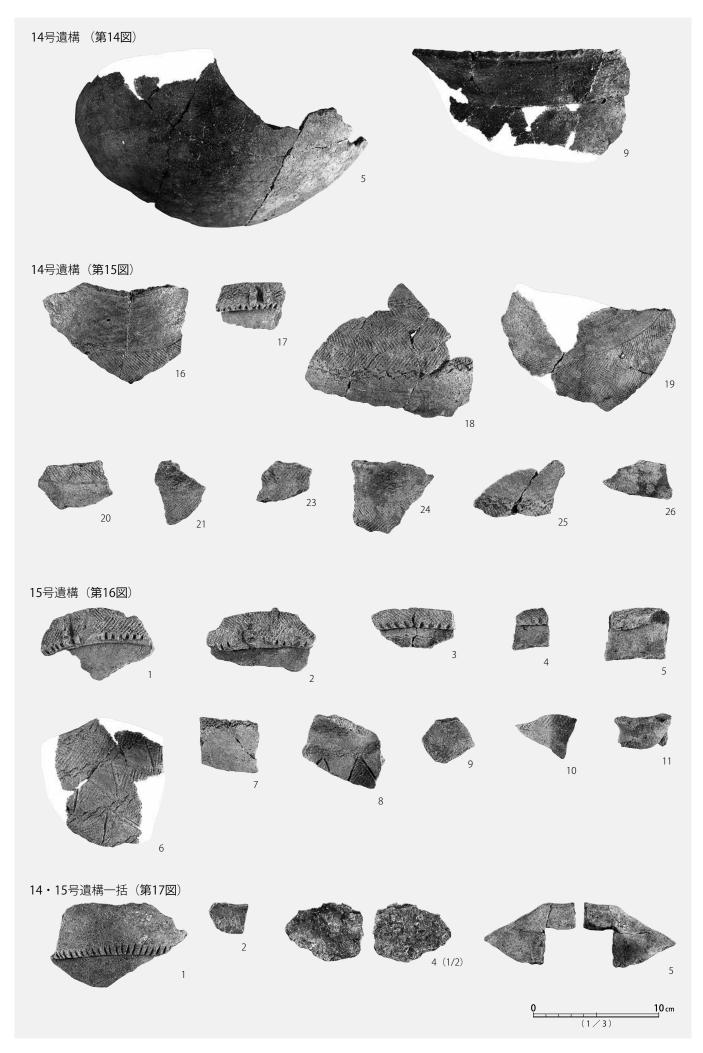


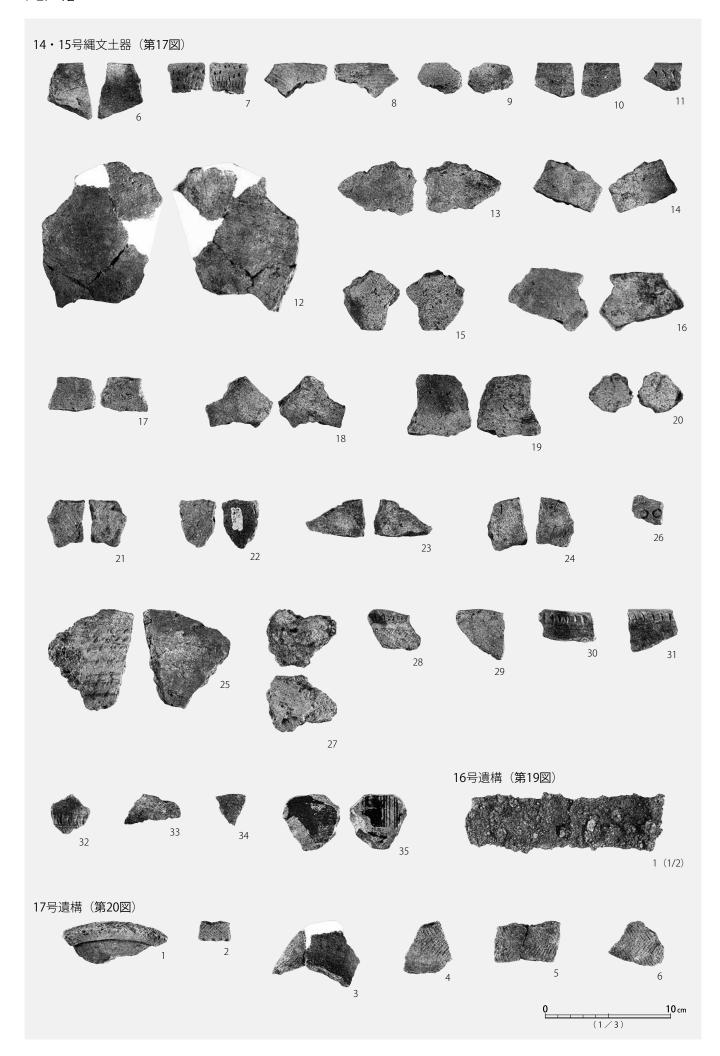
14・15号遺構一括3(第17図)

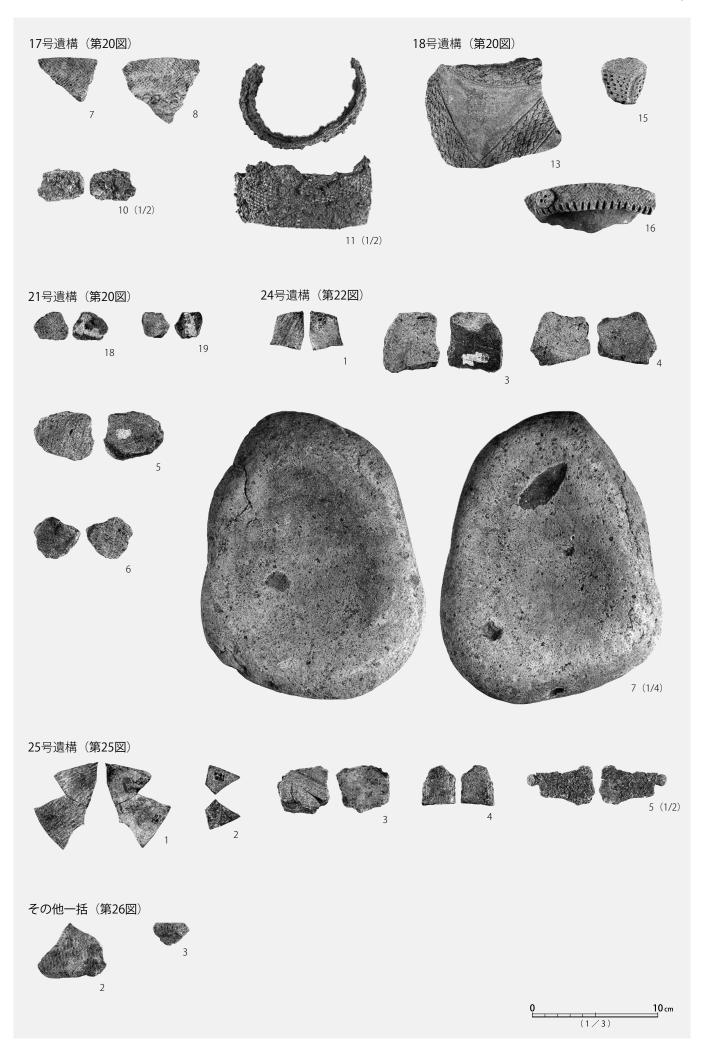
その他一括1 (第26図)

14号遺構11 (第14図)









報告書抄録

ふりがな	いちはらし	ろくそんの	Dうばらいt	せきじーく					
書 名	市原市六孩	系王原遺跡(B区						
副書名									
巻 次									
シリーズ名	市原市埋蔵	域文化財調	査センター訓	周査報告書					
シリーズ番号	第35集								
編著者名	田中清美								
編集機関	市原市埋蔵	域文化財調 查	査センター						
所 在 地	₹290-00	11 千葉県	市原市能満	1489番地	TEL 0436	(41) 900	0		
発行年月日	2016年3月	月17日							
がない。 所収遺跡名	· 所名	がな ご-14h]	- F	世界》	則地系	調査期間	調査面積	調査原因
71以退跡石	7711:		市町村	遺跡番号	北緯	東経	加且规间	神且田恒	訓 且.
5くそんのうばら いせぎ 六孫王原遺跡 _{じーく} G区	おきはら し あねさきを 市原市姉崎 : 3233番1の-	字六孫王原	12219	338	35度 27分 54秒	140度 03分 17秒	20150427 ~ 20150630	1,137㎡ 本調査	宅地造成 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な	遺構	主な	遺物		特記事項	
六孫王原遺跡 G区	包蔵地	縄文 弥生 古墳 中世	軒、方形周泊	を穴建物跡3 構墓3基、土 坑1基、円墳 坑遺構1条	師器、須恵器	你生土器、土 景、中世陶器、 . 鉄釧、埴輪	期から終末 代中期の円 どを検出し	期の炉穴群、 期の集落と境 墳、中世の道 た。 土壙墓から鋭	董墓、古墳時 直路状遺構な
要約	穴建物跡と 方形周溝墓の	方形周溝墓、	に位置するGl 古墳時代中期 墓から出土し 判明した。	の円墳及び中	世の道路状遺	構などである	。弥生時代後	 期から終末期	別の拡張した

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第35集

市原市六孫王原遺跡G区

平成28年3月17日発行

市原市埋蔵文化財調査センター 千葉県市原市能満1489番地 Tel 0436 (41) 9000 編集

千葉県市原市教育委員会 発 行

千葉県市原市国分寺台中央1-1-1 Tel 0436 (22) 1111

株式会社 弘 文 社 千葉県市川市市川南2-7-2 Tel 047 (324) 5977 印刷